

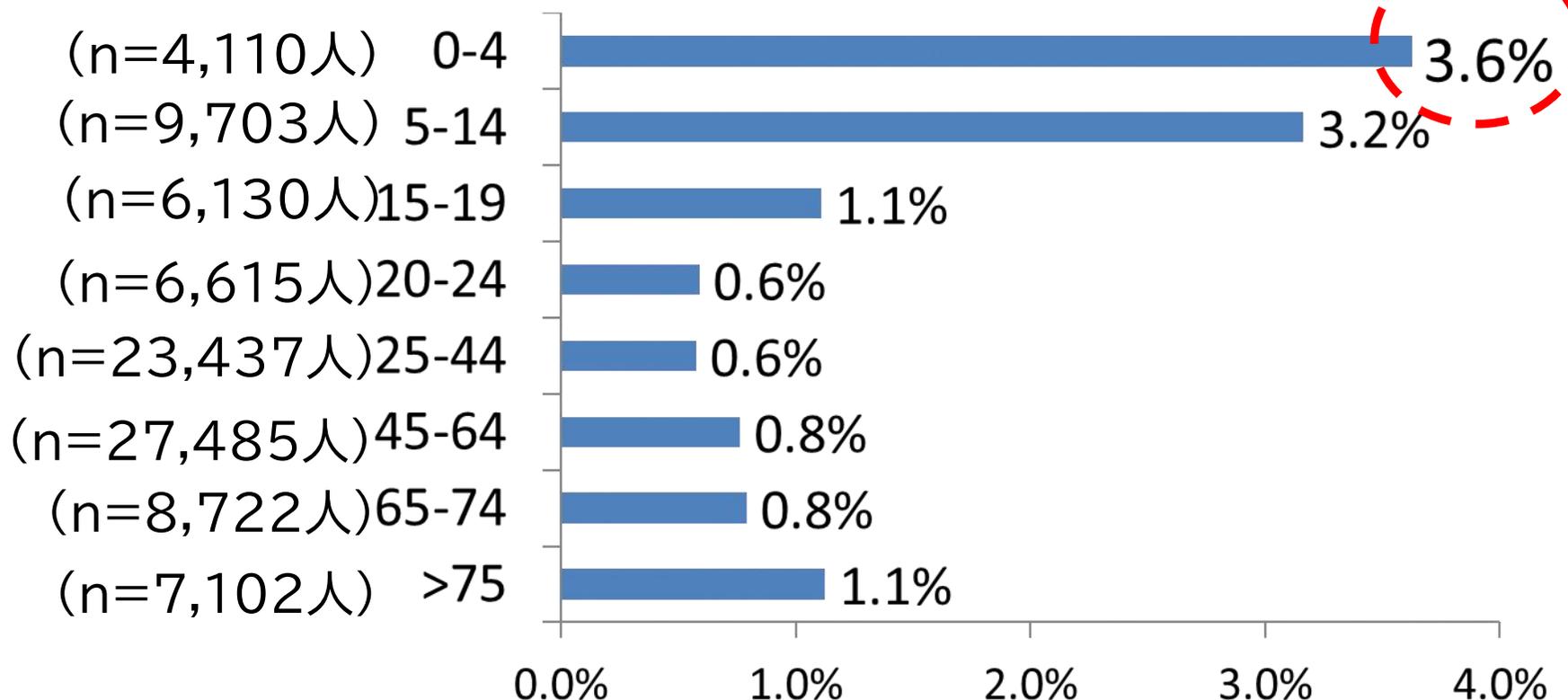
乳幼児の安全対策委員会

発表日 令和5年2月19日
発表者 乳幼児の安全対策委員会
委員長 石田 数美

乳幼児の安全対策の必要性

外傷発生動向調査では4歳以下の外傷が最も多い

年齢階層別受診率



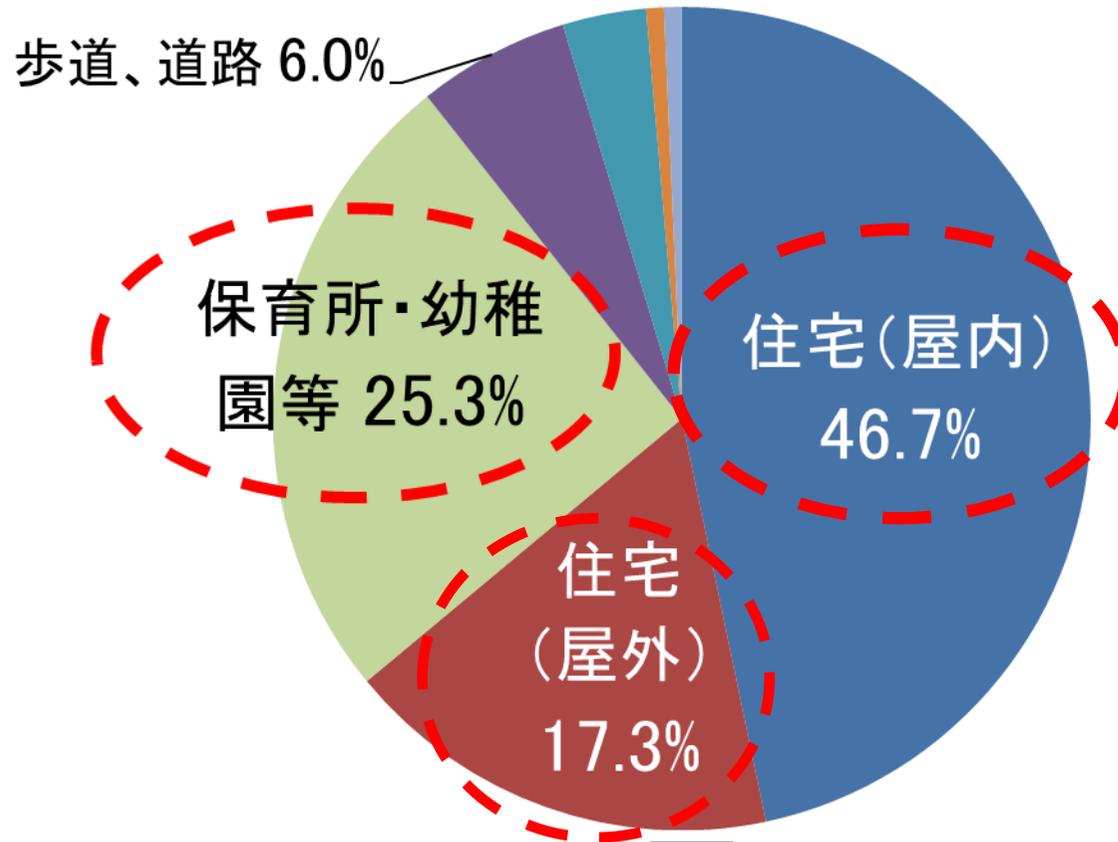
出典：外傷発生動向調査 2007年

乳幼児の安全対策の必要性

外傷発生動向調査では4歳以下の外傷受傷場所は

①住宅、②保育所等の順に多い

亀岡市内における乳幼児(0~4歳)の外傷場所 (n=148人)



出典:外傷発生動向調査 2007年

乳幼児の安全対策委員会の設置

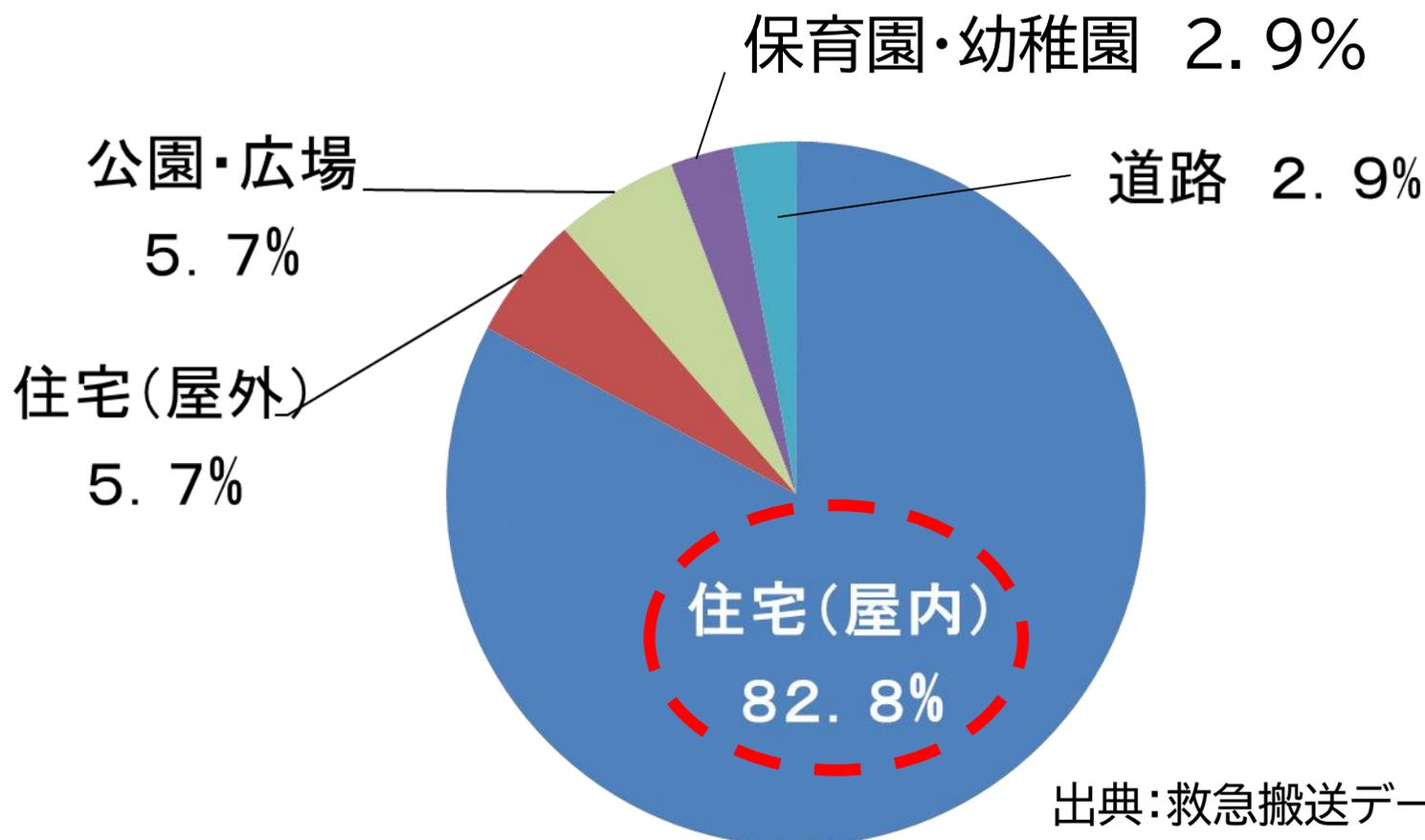
乳幼児の安全対策委員会名簿

		所属団体	役職
市民団体等	1	亀岡市民生・児童委員協議会主任児童委員連絡会	
	2	NPO法人亀岡子育てネットワーク 理事長	委員長
関係機関等	3	京都第一赤十字病院 救急救命センター副センター長 救急科 救急ER部長	
	4	亀岡市子育て支援センター センター長	
	5	亀岡市立亀岡幼稚園 園長	
	6	亀岡市保育所こども園幼稚園養護研究会代表	
行政関係	7	京都府南丹保健所 保健課 保健師	副委員長
	8	亀岡市子育て支援課 課長	
	9	亀岡市自治防災課 課長	

データに基づく客観的課題(継続)

「乳幼児(0~4歳)の外傷受傷場所は**住宅内**が最も多い」
救急搬送データ 集計結果

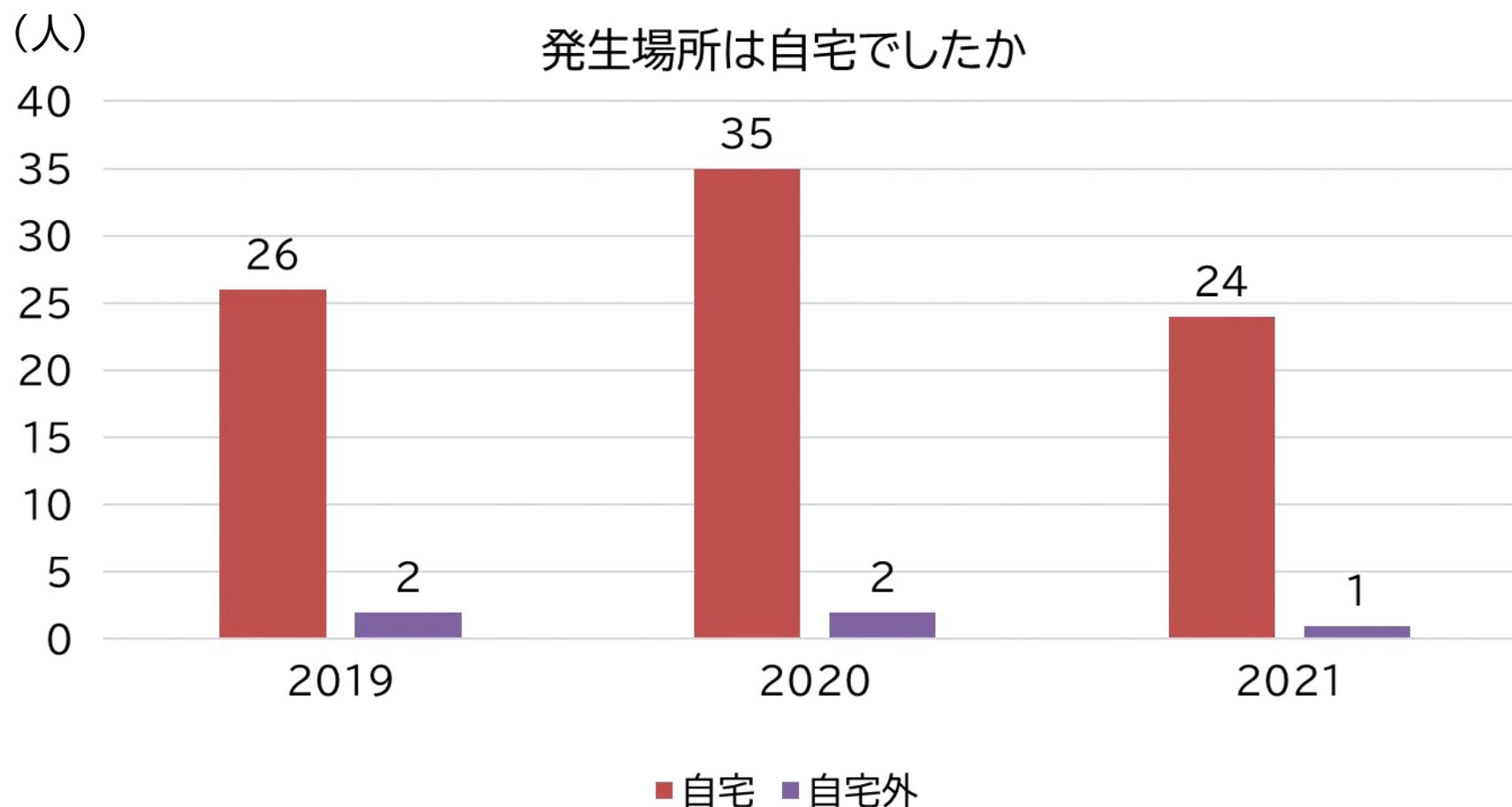
亀岡市内における乳幼児(0~4歳)の外傷場所 (n=35人)



データに基づく客観的課題(継続)

「乳幼児の外傷受傷場所は**住宅内**が多い」

家庭内の事故予防調査アンケート 集計結果



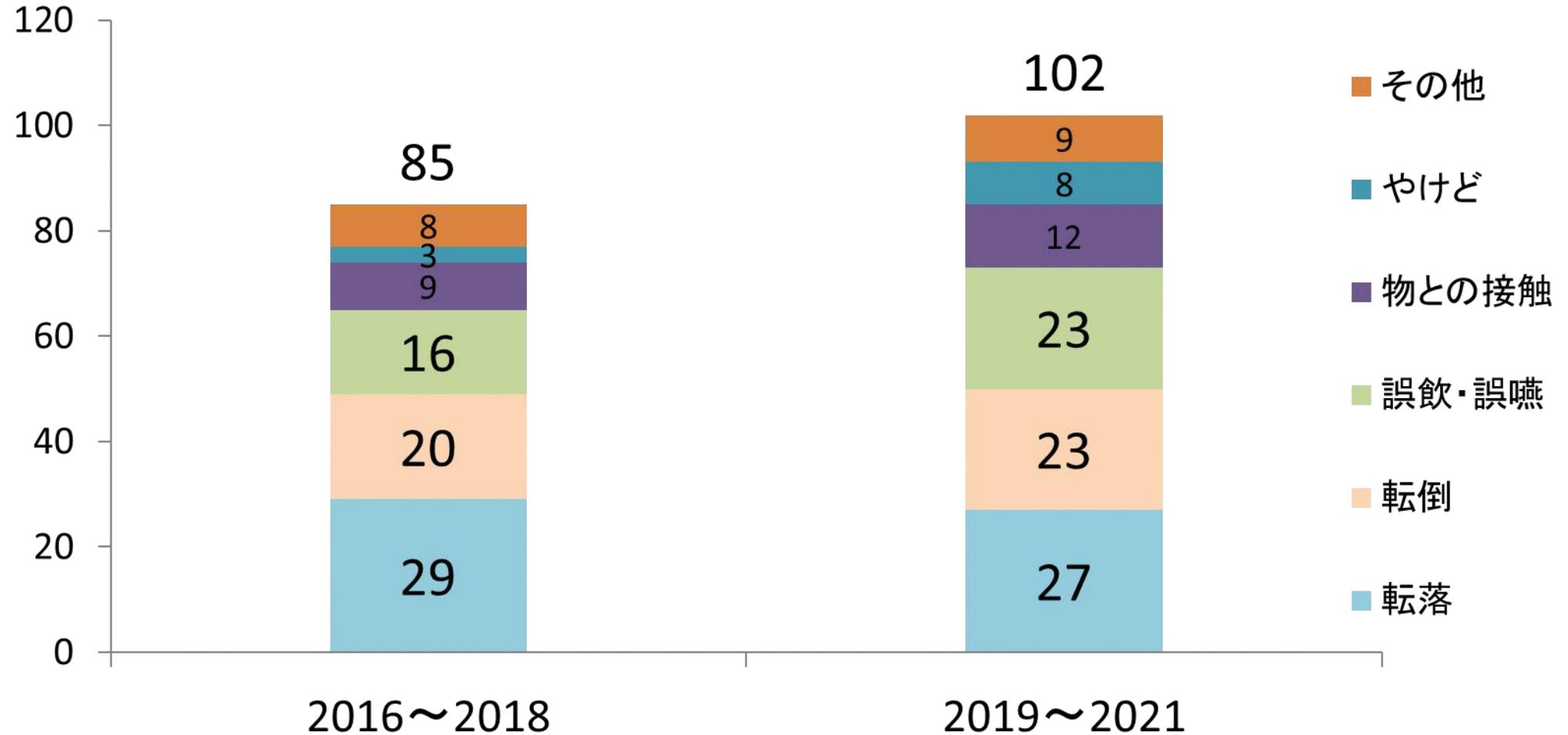
出典:家庭内事故予防調査アンケート(11か月健診時)

データに基づく客観的課題(継続)

救急搬送データにおける乳幼児の住宅での受傷原因

①転落 ②転倒 ③誤飲・誤嚥 ④物との接触

(件) 亀岡市内の乳幼児(0~4歳)の住宅での外傷受傷原因(3年間の合計)



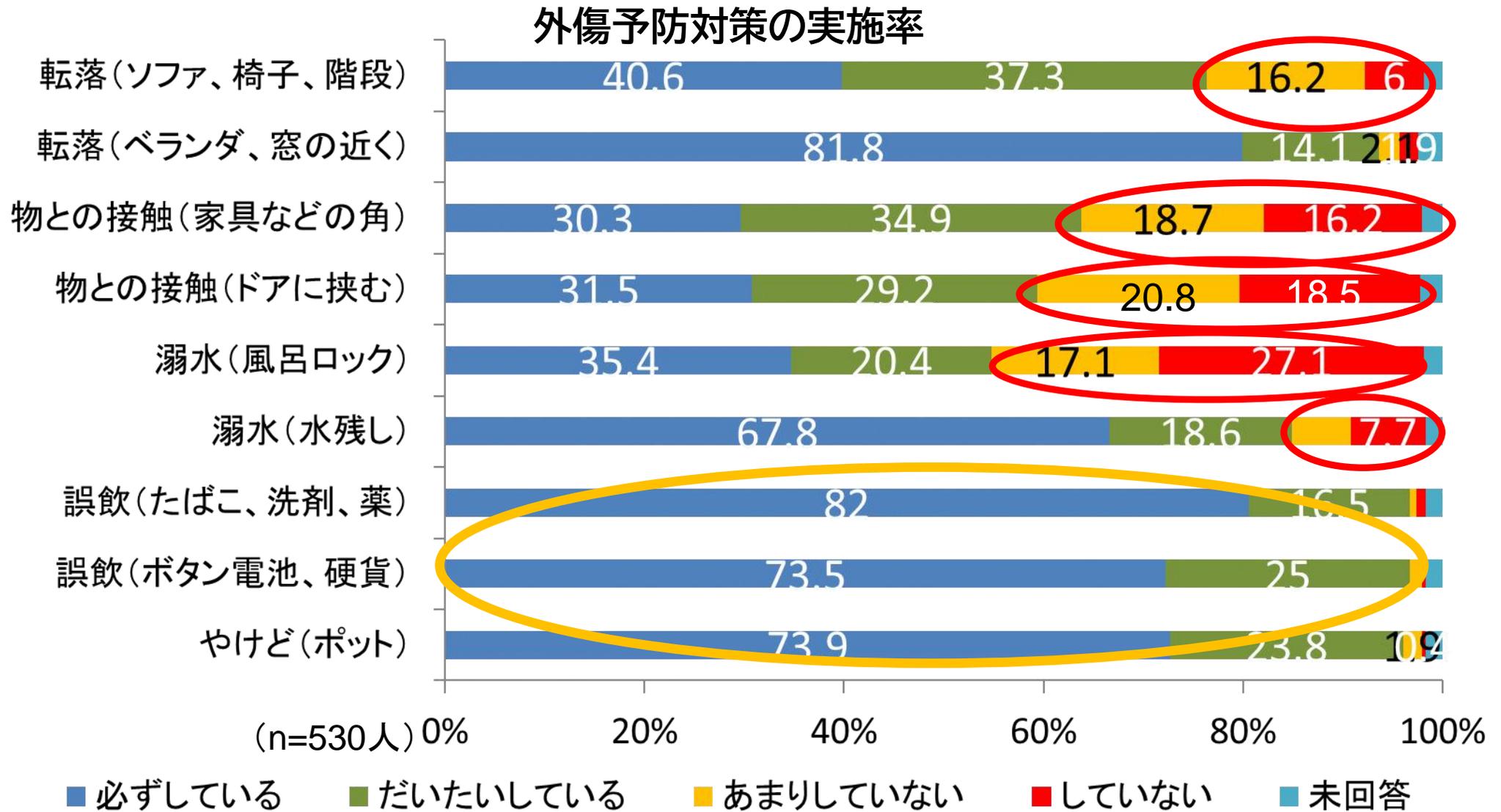
(0~4歳人口) (10,299人)

(9,387人)

出典:救急搬送データ

データに基づく客観的課題(継続)

- ・転落(ソファ)・物との接触・溺水(風呂ロック)の対策をしていない保護者が多い
- ・誤飲・やけど対策は約98%の保護者がしている

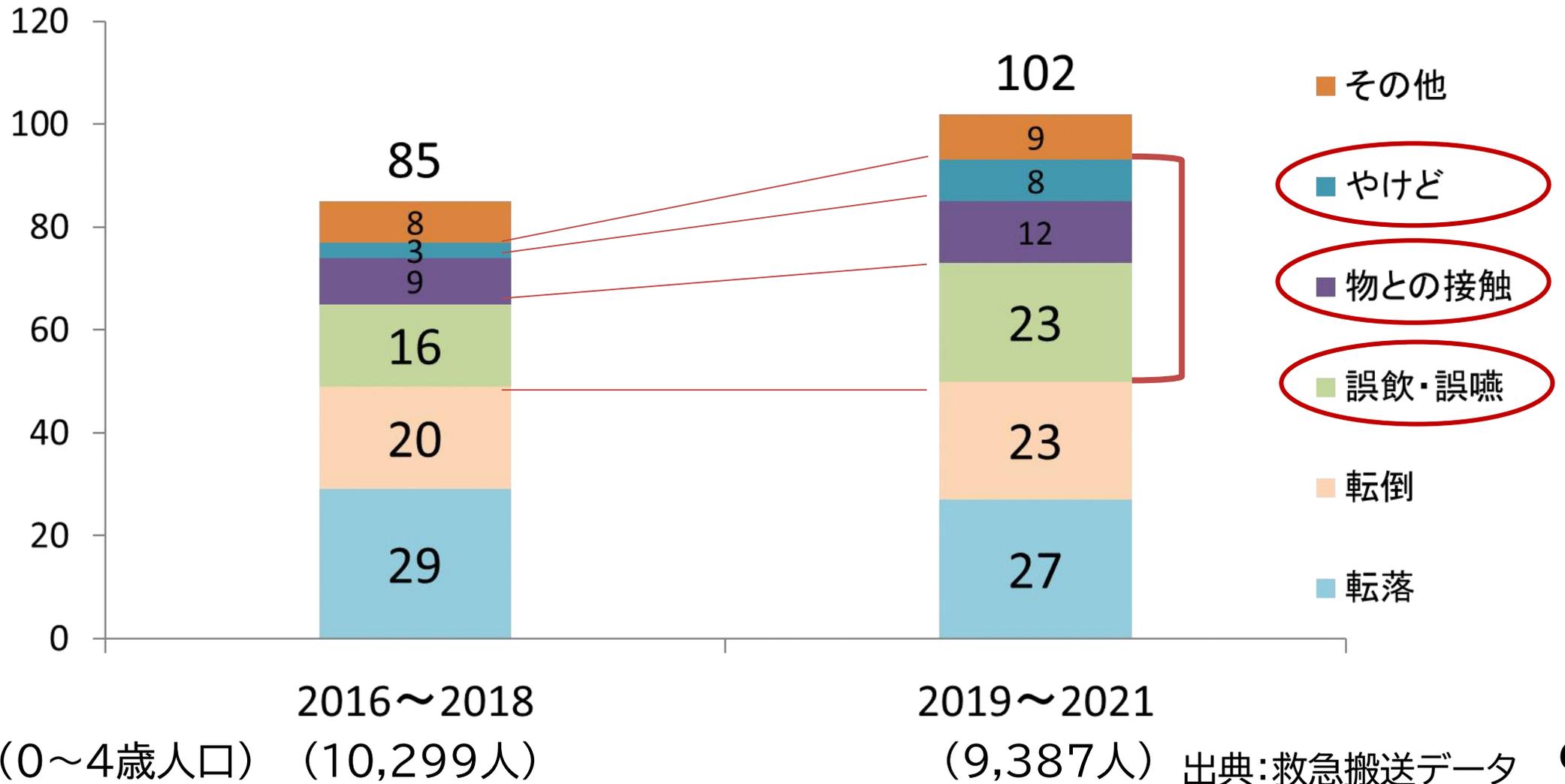


データに基づく客観的課題(新規)

「転落」「転倒」は横ばい

「誤飲・誤嚥」「物との接触」「やけど」が増加

(件) 亀岡市内の乳幼児(0~4歳)の住宅での外傷受傷原因(3年間の合計)



主観的・客観的課題の整理

経験に基づくもの

- ・乳幼児の筋力・バランス感覚は未熟で転落、転倒、物と接触しやすい
- ・乳幼児には発達特性があり見通しをもちにくい
- ・コロナ禍のため外出の機会が減り住宅で過ごす時間が長くなったため住宅での受傷する機会が増える

データに基づくもの

- ・(継)住宅での乳幼児の外傷が多く、外傷原因は①転落、転倒②誤飲・誤嚥③物との接触の順に多い
- ・(継)転落、物との接触、溺水の対策をしていない保護者が多い
- ・(新)誤飲・誤嚥、物との接触、やけどが増加している



重点課題の設定

優先的に取り組む重点課題

重点領域	重点課題
乳幼児の住宅での安全(継続)	<ul style="list-style-type: none">・(継)住宅での乳幼児の外傷が多く、外傷原因は①転落・転倒②誤飲・誤嚥③物との接触の順に多い・(継)転落、物との接触、溺水の対策をしていない保護者が多い・(新)誤飲・誤嚥、物との接触、やけどが増加している・(継)乳幼児には発達特性があり、見通しがもちにくい・(新)コロナ禍のため外出の機会が減り住宅で過ごす時間が長くなったため住宅で受傷する機会が増える

課題解決のための方向性と対策

課 題	方 向 性	対 策
<ul style="list-style-type: none"> ・(継)乳幼児の外傷受傷場所は住宅が多い ・(継)乳幼児の受傷原因は①転落・転倒②誤飲・誤嚥③物との接触の順に多い ・(継)転落、物との接触、溺水の対策をしていない保護者が多い ・(新)誤嚥、物との接触、やけどが増加している ・乳幼児に発達特性があり、見通しがもちにくい ・コロナ禍のため外出の機会が減り住宅で過ごす時間が長くなったため住宅で受傷する機会が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児保護者の外傷防止に対する意識の向上 ・住宅内における頻度の高い事故への安全対策 ・乳幼児の発達特性を理解し、成長を見通した安全対策 	<p style="color: red; text-align: center;">乳幼児保護者向け 安全教育プログラム(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷予防講習 ・啓発パンフレット・ポスターの作成・配布

課題設定に対する既存の取組(国・府 市町村 地域)

課題	区分	国・府	市町村	地域
乳幼児の住宅での外傷が多い	環境改善	<p>子どもの事故防止に関する関係府省庁連絡会議「子どもを事故から守る！プロジェクト」の推進</p> <p>健やか親子21</p>		<p>製品の改善 (JIS・SG・ST・キッズデザインマーク 等)</p>
	規制	<p>消費生活用製品安全法 (PSCマーク)</p> <p>食品衛生法 (おもちゃの安全性の規定)</p>		
	教育・啓発	<p>ウェブサイト、メール、SNSで保護者等に発信(子どもを事故から守る！Twitter、健やか親子21、こちら安全情報局)</p> <p>啓発資料の作成・周知</p> <p>子どもの事故防止週間の実施</p>	<p>母子保健事業 (母子健康手帳交付・妊婦・乳幼児健診等)</p> <p>対策委員会 乳幼児保護者向け安全教育プログラム ・外傷予防講習の実施 ・啓発パンフレット・ポスターの作成・配布</p>	<p>啓発物の配布 (母子健康手帳副読本・我が家の安心ガイドブック 等)</p>

プログラムの運営状況

	進行状況				計画(予定)		
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
乳幼児保護者向け安全教育プログラム	→ 継続 →				----- →		

①乳幼児保護者向け安全教育プログラム(継続)

課 題	乳幼児の住宅での外傷が多い	
目 標	乳幼児の住宅での外傷を減らす	
内容等	【内容】	乳幼児健診やその他乳幼児の保護者が集まる場で外傷予防講習を実施し、住宅での外傷予防活動を呼びかける
	【対象】	乳幼児の保護者
(短期) 態度や行動の 変化	【指標】 外傷予防等に関する保護者の 認知度	【測定】 家庭内事故予防調 査アンケート
(中期) 態度や行動の 変化	【指標】 外傷予防活動の実施率	
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 乳幼児の住宅での受傷件数、受 傷率	【測定】 救急搬送データ

乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況

啓発ポスターを作成

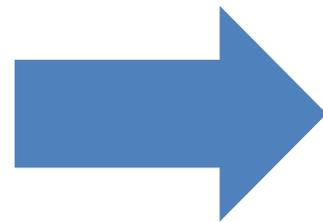
2017年～

子どもの好奇心は無限大
だからこそ目を離さないで

休日や夜間に子どもを病院に連れて行くか迷ったとき
#8000に電話
看護師・小児科医に相談出来ます
平日・日曜・夜日：午後7時～翌日午前8時 土曜日：午後3時～翌日午前8時
075-661-5596 (ダイヤル回線、IP電話の場合)

目録別の事故と対応方法を見る
危険を減したり医療情報を見る

<京都府HP> <京都健康医療ようすネット>



「環境改善」に着目した内容に修正

2019年～

いのちを守るためにできること

危険な場所によじ登れるものを置かない

✓ 蒸気の出る器具や熱いものは子どもが手の届かないところに置く

休日や夜間に子どもを病院に連れて行くか迷った時
#8000に電話
看護師・小児科医に相談できます。
平日・日・祝：午後7時～翌日午前8時 土：午後3時～翌日午前8時
075-661-5596 (ダイヤル回線、IP電話の場合)

京都女子大学の
学生がデザイン

対策をしておくことで
大きな事故を防ぐことができます。



乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況

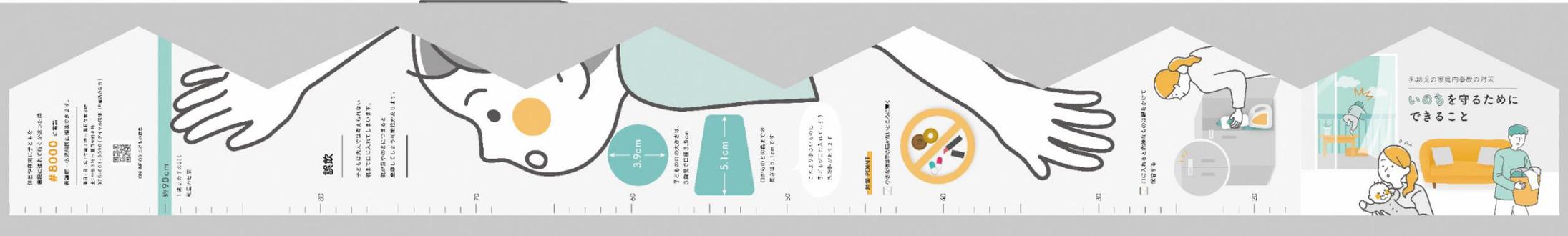
2017年～



啓発パンフレットを作成



2019年～



乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況

4か月児健診で保護者に事故予防の啓発



パンフレットを
使って説明

乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況

イベント会場で参加者に事故予防の啓発

幅広い対象者に向けて



プログラムの活動実績と計画

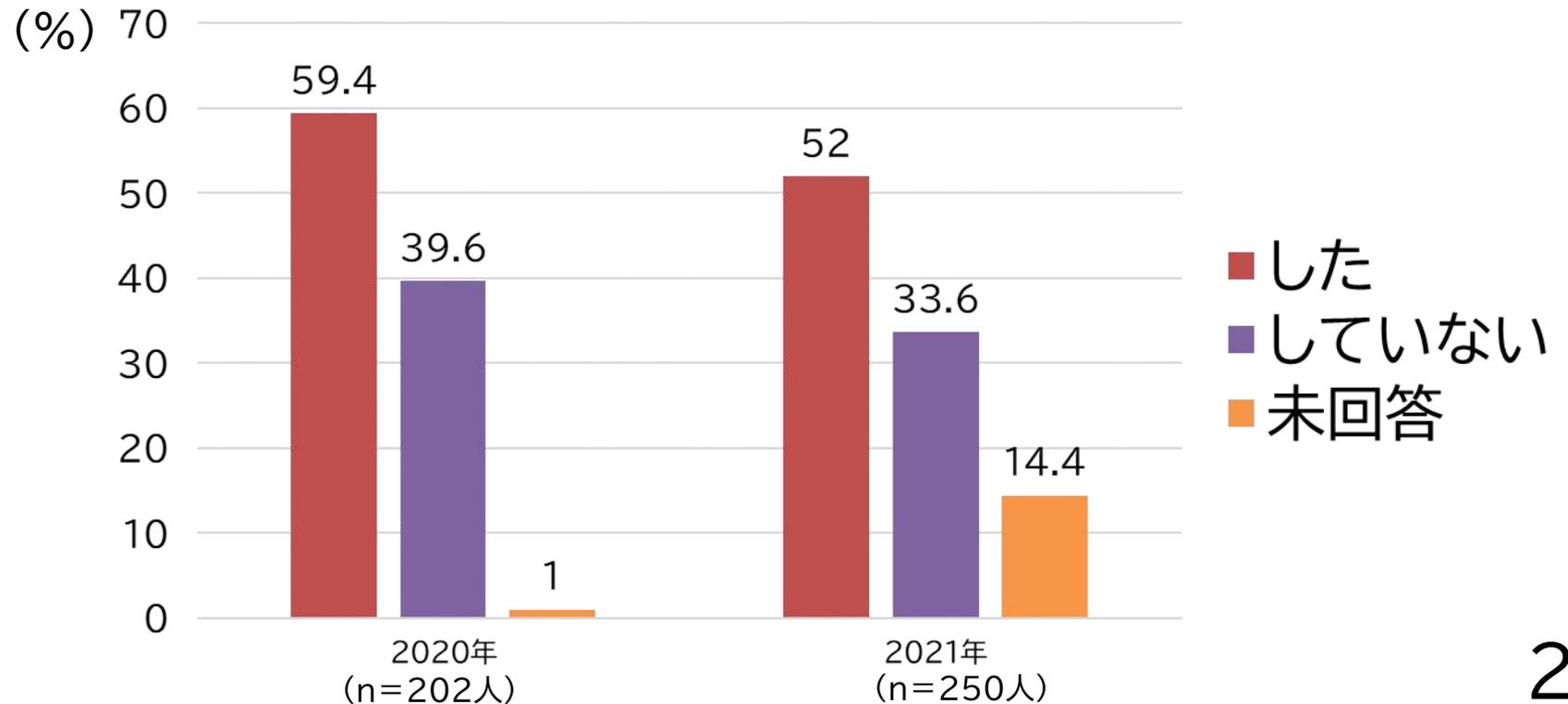
実績と今後の予定	実績				対策委員会の関わり	工夫点
	2018	2019	2020	2021		
外傷予防講習	548人 参加	554人 参加	502人 参加	545人 参加	<p>→ 継続 →</p> <p>・11カ月児健診時に実施するアンケート調査票の集計・分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境改善に焦点を当てた講習内容を提案 ・保護者の行動変容を毎年評価した
啓発パンフレット・ポスターの作成・配布	第2弾 作成	配布 開始	パンフレット形 態変更		<p>→ 継続 →</p> <p>・第2弾のパンフレット、ポスターを京都女子大学生と協働作成し配布した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外傷予防のための環境改善に焦点を当てた内容とした。

プログラム評価結果(短期)

外傷予防等に関する保護者の認知度

短期		2020年	2021年
パンフレットを参考にした人の割合(%) (パンフレットを知っていると回答した人のうち)	参考にした	59.4%(120人)	52.0%(130人)
	参考にしていない	39.6%(80人)	33.6%(84人)
	未回答	1%(2人)	14.4%(36人)

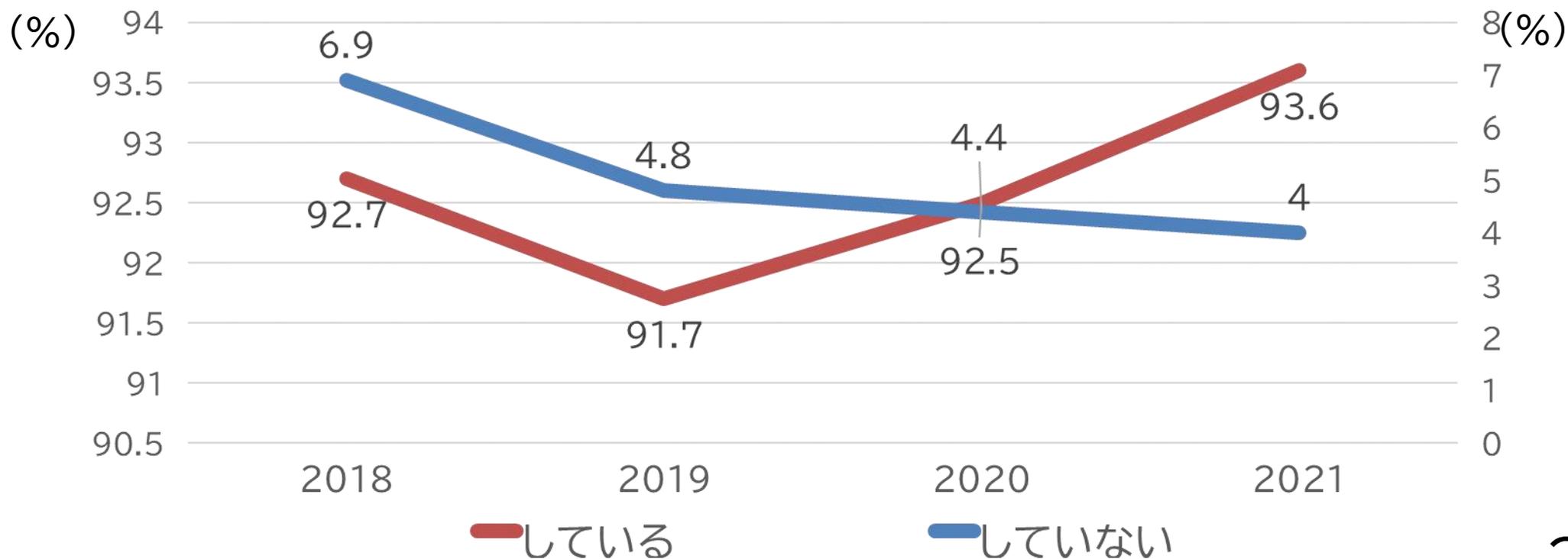
出典:家庭内事故予防調査アンケート



プログラム評価結果(中期)

外傷予防活動の実施率		2018	2019	2020	2021
中期					
ベランダや窓のそばに踏み台になるようなものを置かないようにしているか	している	92.7%	91.7%	92.5%	93.6%
	していない	6.9%	4.8%	4.4%	4.0%

出典:家庭内事故予防調査アンケート



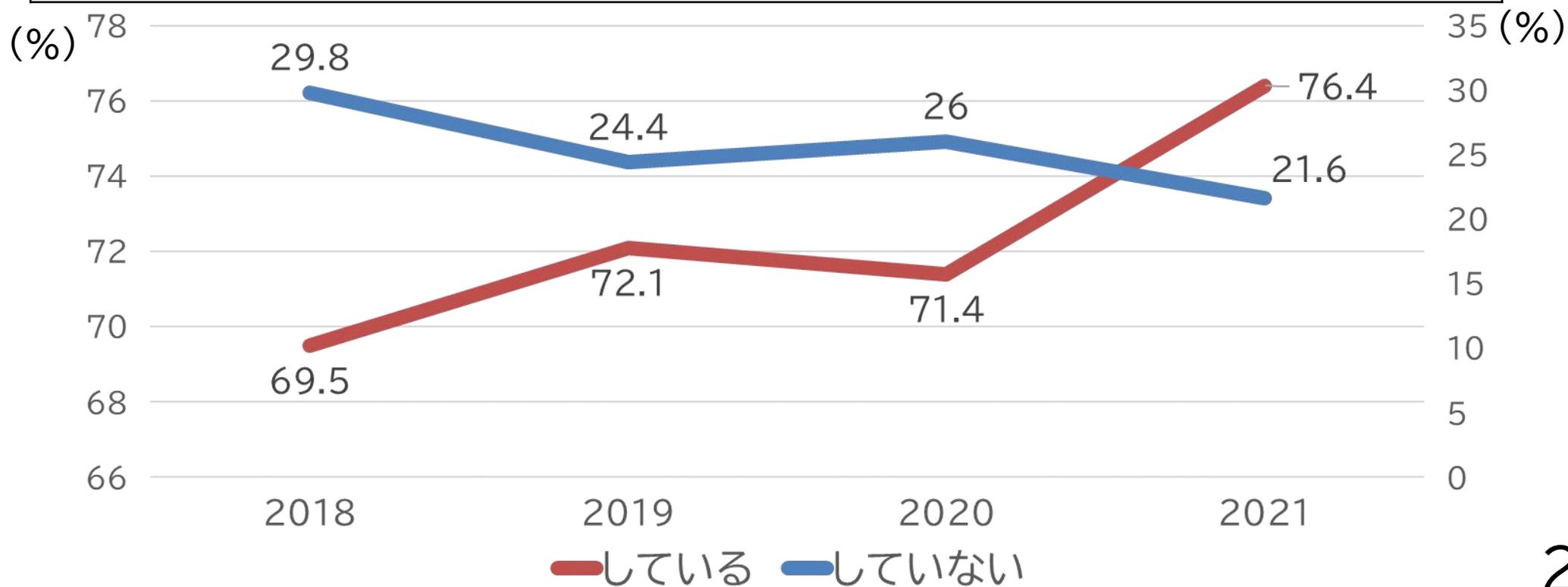
プログラム評価結果(中期)

外傷予防活動の実施率

中期		2018	2019	2020	2021
ソファや椅子、階段や玄関などから落ちないような工夫をしているか	している	69.5%	72.1%	71.4%	76.4%
	していない	29.8%	24.4%	26.0%	21.6%



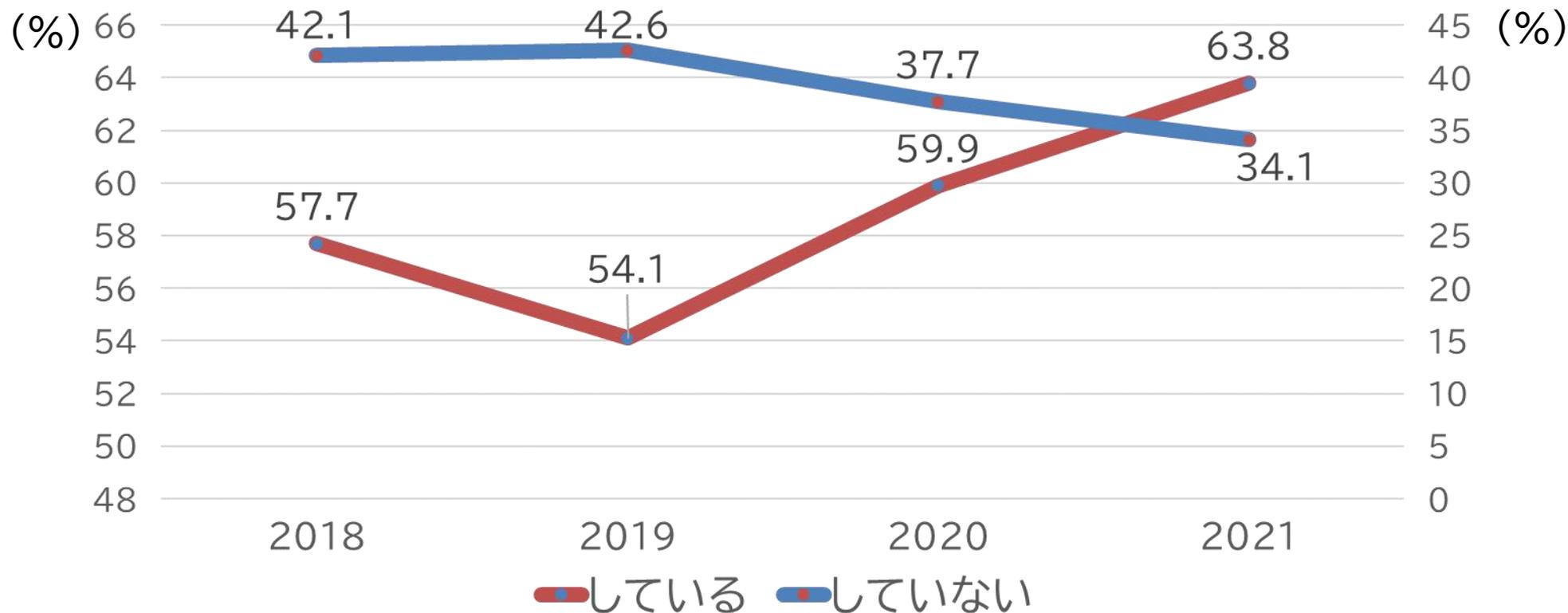
出典:家庭内事故予防調査アンケート



プログラム評価結果(中期)

		外傷予防活動の実施率			
中期		2018	2019	2020	2021
家具などの鋭い角をガードしているか	している	57.7%	54.1%	59.9%	63.8%
	していない	42.1%	42.6%	37.7%	34.1%

出典:家庭内事故予防調査アンケート

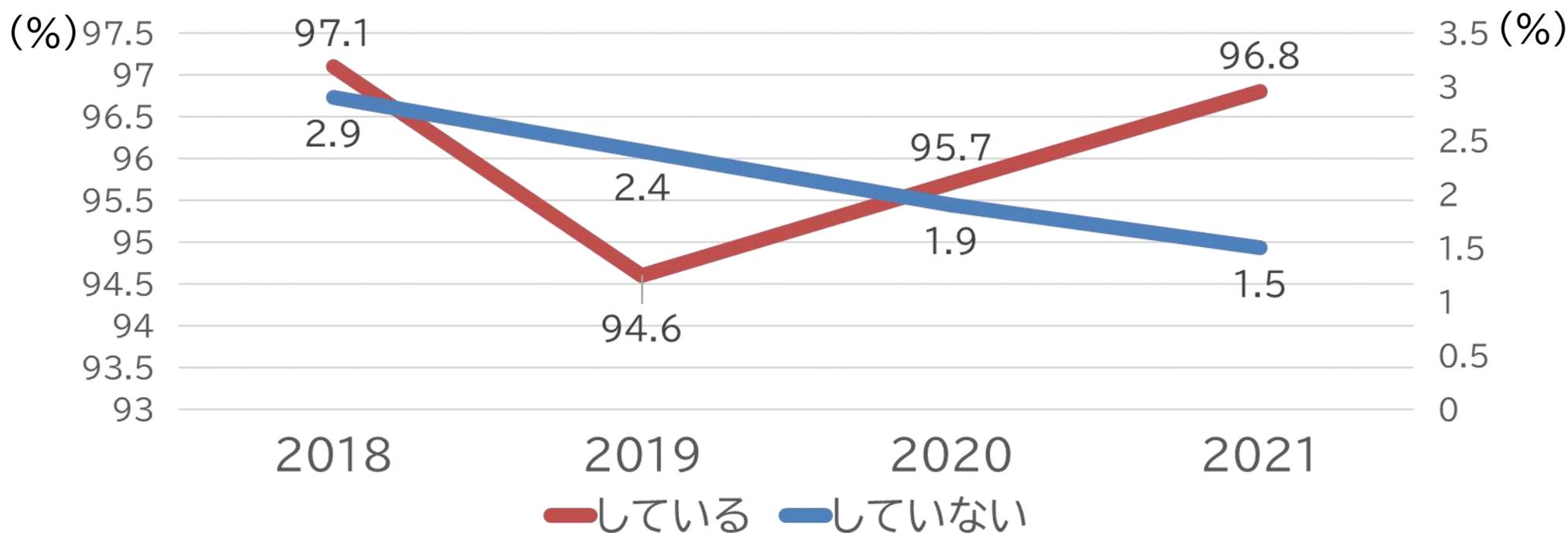


プログラム評価結果(中期)

外傷予防活動の実施率

中期		2018	2019	2020	2021
たばこや洗剤、 薬などは手の 届かないところ に置いてい るか	している	97.1%	94.6%	95.7%	96.8%
	していない	2.9%	2.4%	1.9%	1.5%

出典: 家庭内事故予防調査アンケート



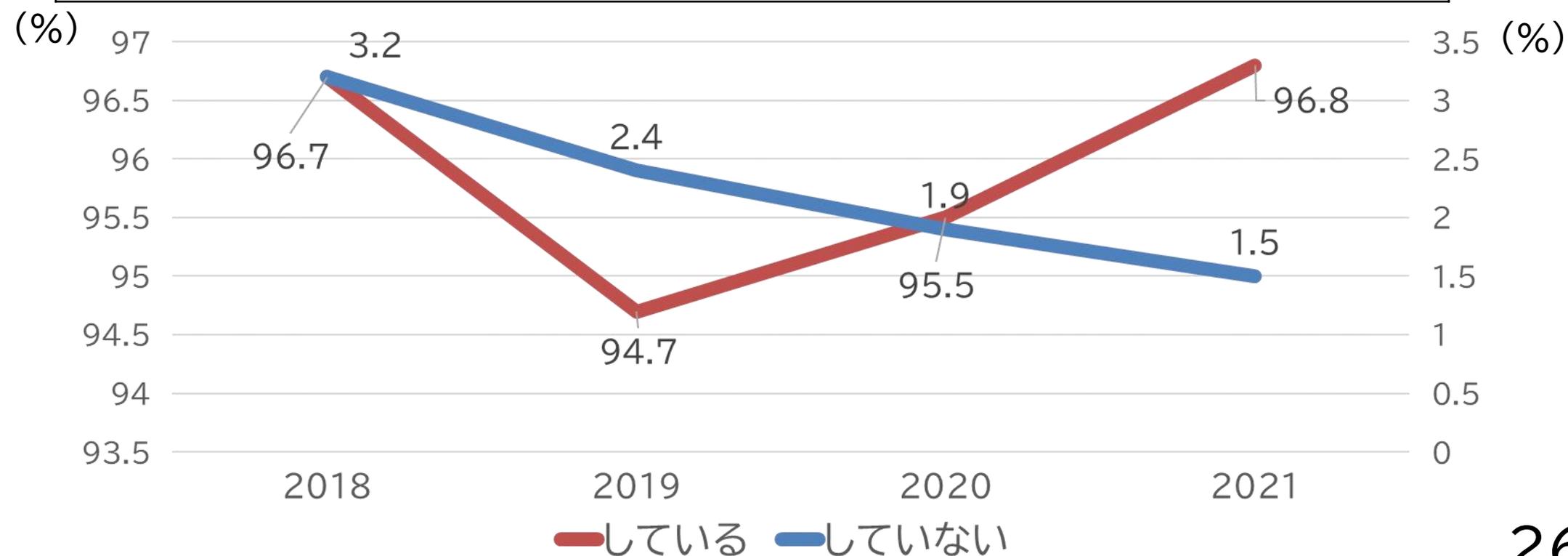
プログラム評価結果(中期)

外傷予防活動の実施率

中期		2018	2019	2020	2021
ボタン電池や硬貨、指輪などの小さい物を手の届かないところに置いているか	している	96.7%	94.7%	95.5%	96.8%
	していない	3.2%	2.4%	1.9%	1.5%



出典:家庭内事故予防調査アンケート



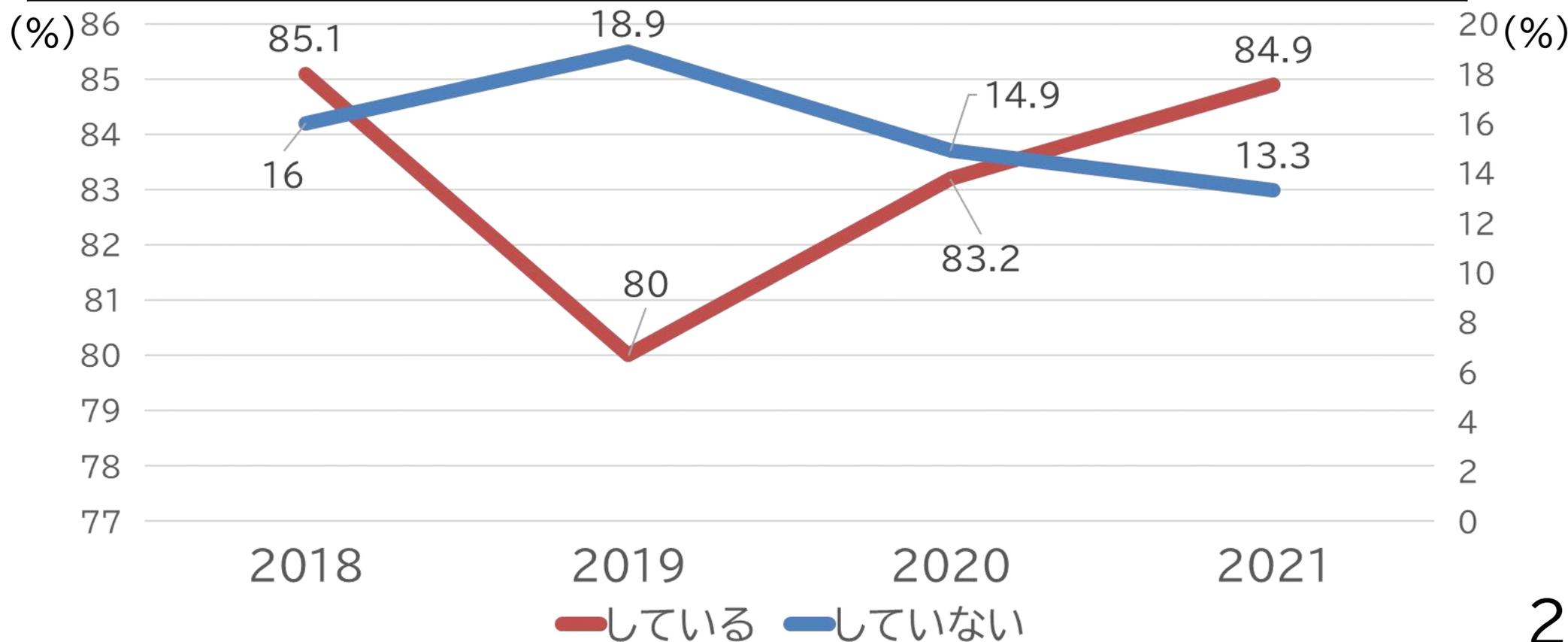
プログラム評価結果(中期)

外傷予防活動の実施率

中期		2018	2019	2020	2021
浴槽や風呂用品に湯や水を残さないようにしているか	している	85.1%	80.0%	83.2%	84.9%
	していない	16.0%	18.9%	14.9%	13.3%



出典:家庭内事故予防調査アンケート



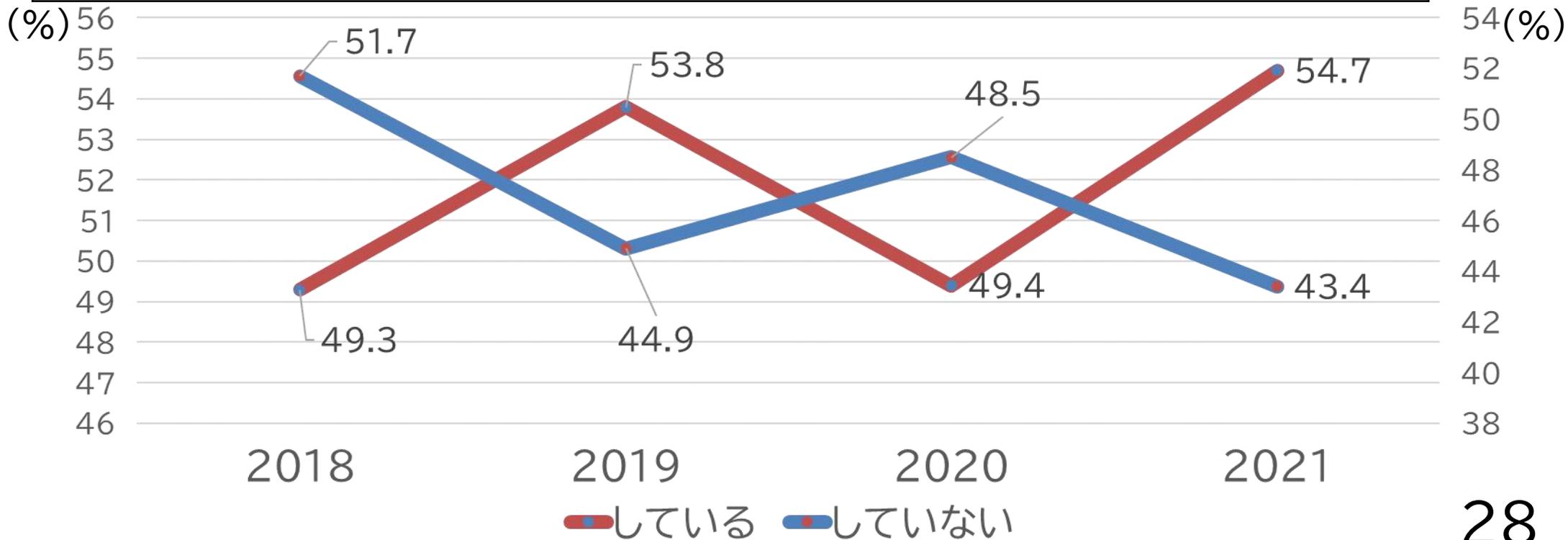
プログラム評価結果(中期)

外傷予防活動の実施率

中期		2018	2019	2020	2021
風呂場のドアを閉め、 ロックして入れないようにしているか	している	49.3%	53.8%	49.4%	54.7%
	していない	51.7%	44.9%	48.5%	43.4%



出典:家庭内事故予防調査アンケート



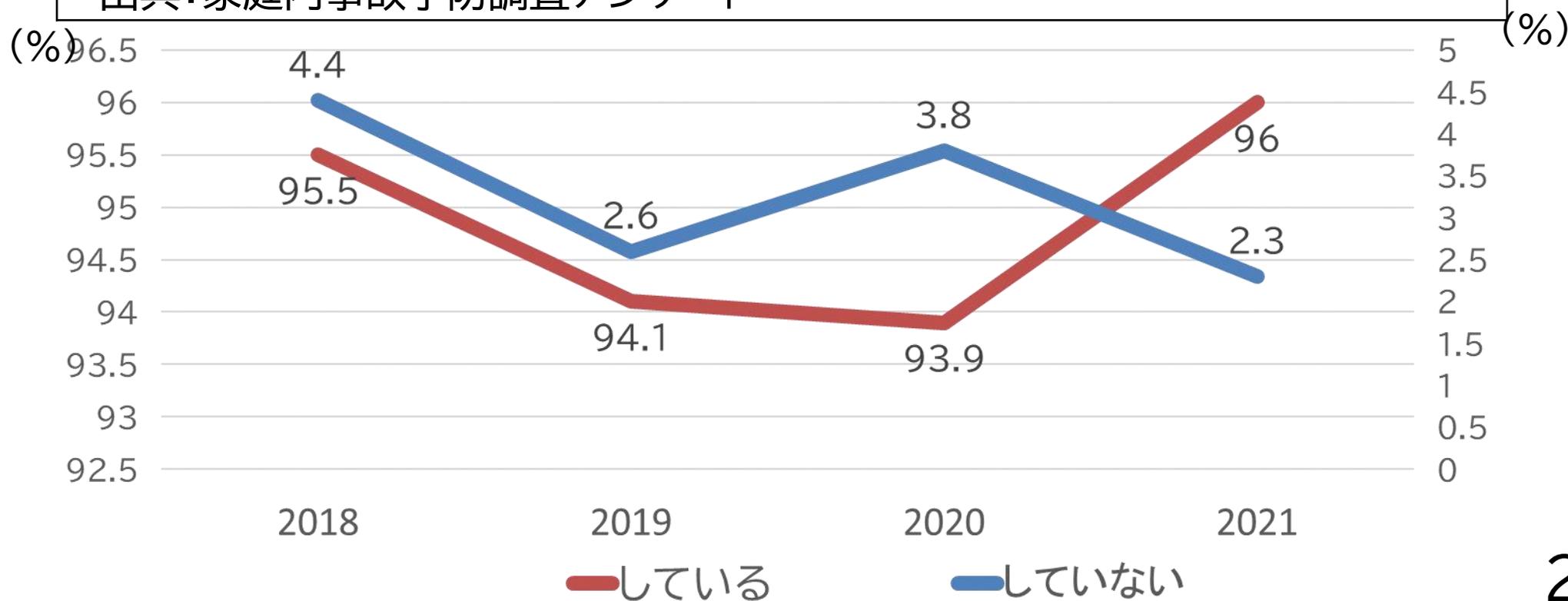
プログラム評価結果(中期)

外傷予防活動の実施率

中期		2018	2019	2020	2021
ポットや炊飯器、暖房器具など熱いものは、子どもの手の届かないところに置いているか	している	95.5%	94.1%	93.9%	96.0%
	していない	4.4%	2.6%	3.8%	2.3%



出典:家庭内事故予防調査アンケート



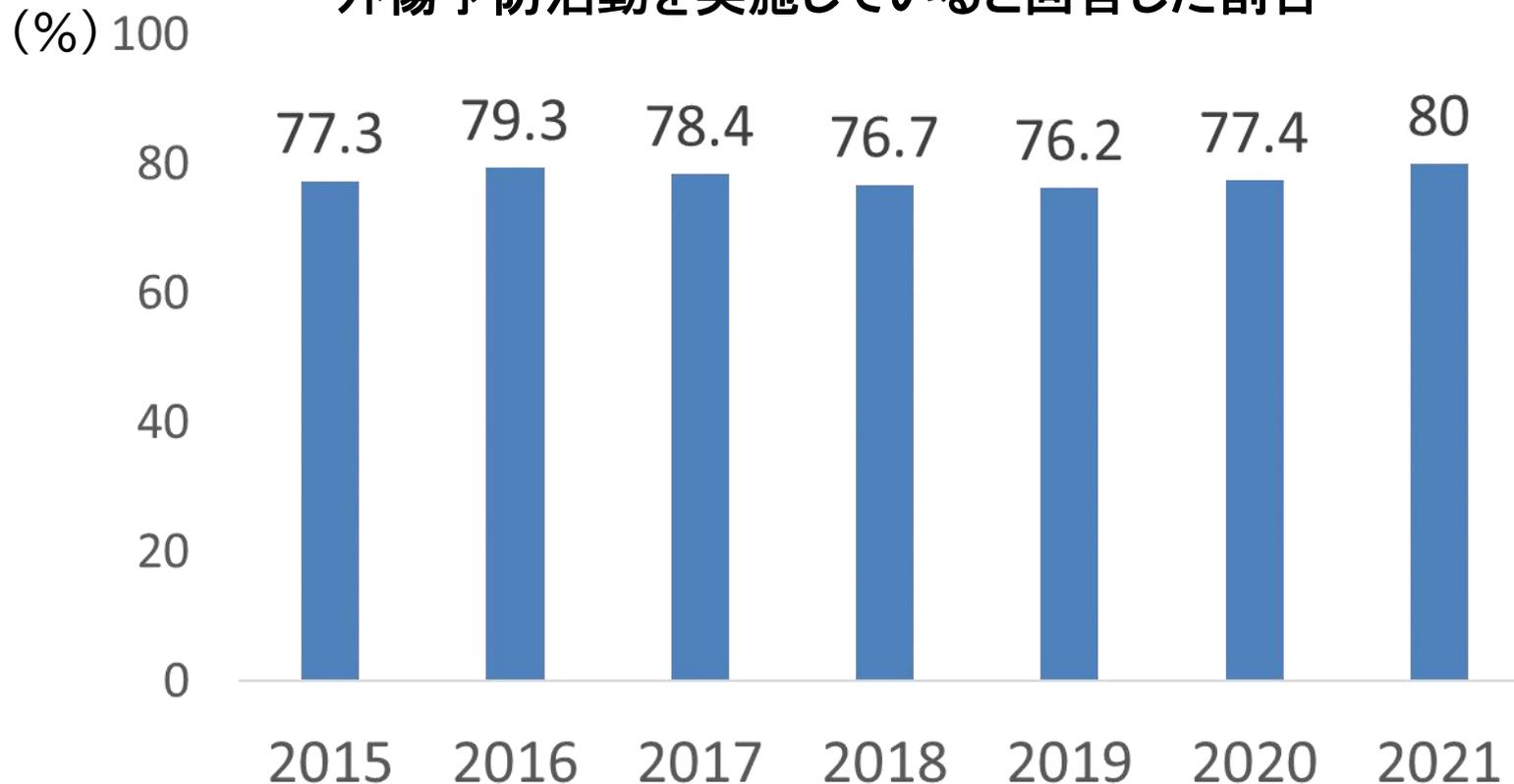
プログラム評価結果(中期)

外傷予防活動の実施率

中期	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
外傷予防活動 実施率	77.3%	79.3%	78.4%	76.7%	76.2%	77.4%	80.0%

出典:家庭内事故予防調査アンケート

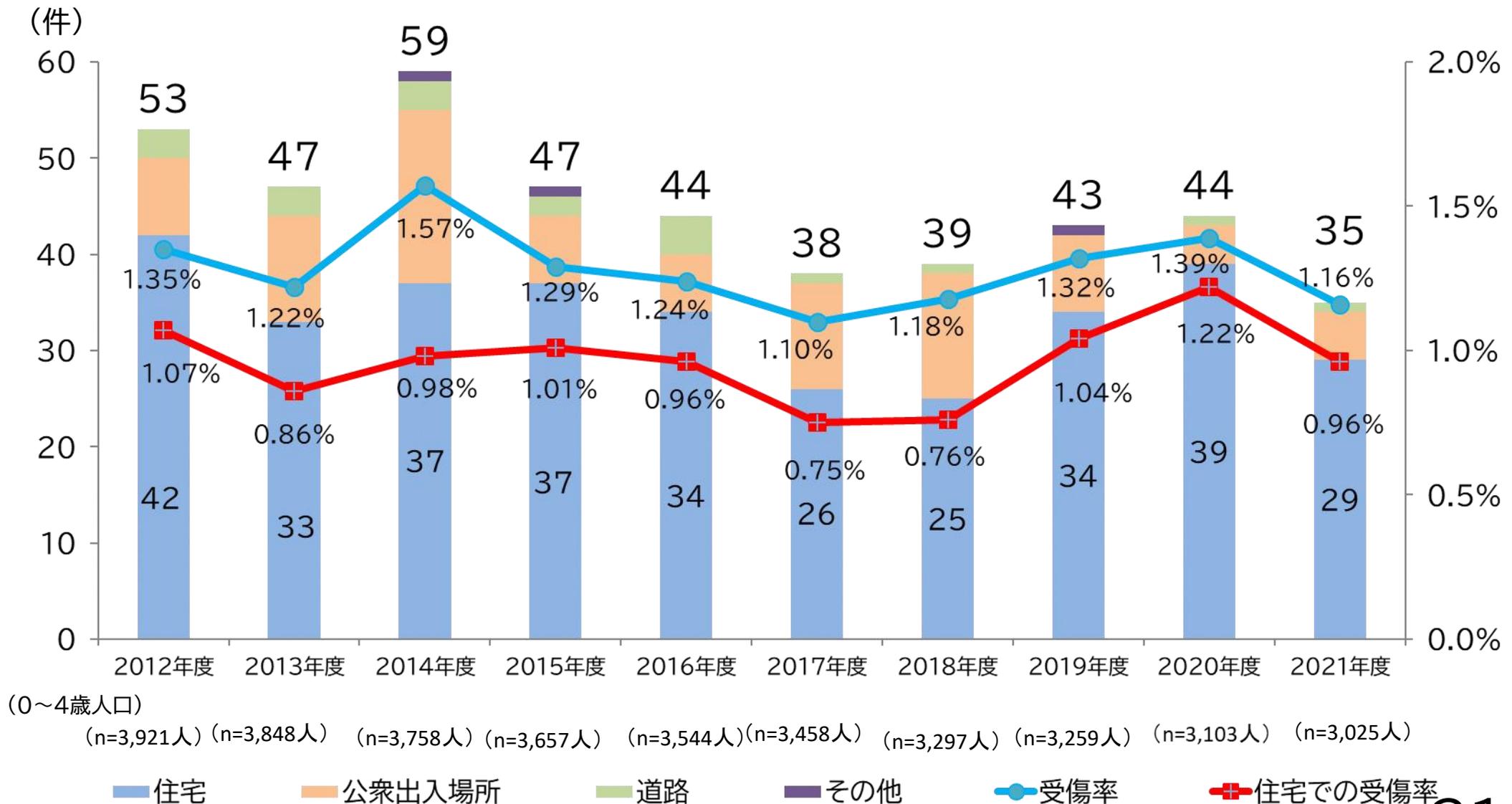
外傷予防活動を実施していると回答した割合



プログラム評価結果(長期)

乳幼児(0~4歳)の救急搬送件数と受傷率

救急搬送件数は減少傾向にあるが、住宅内での受傷率は横ばい



(0~4歳人口)

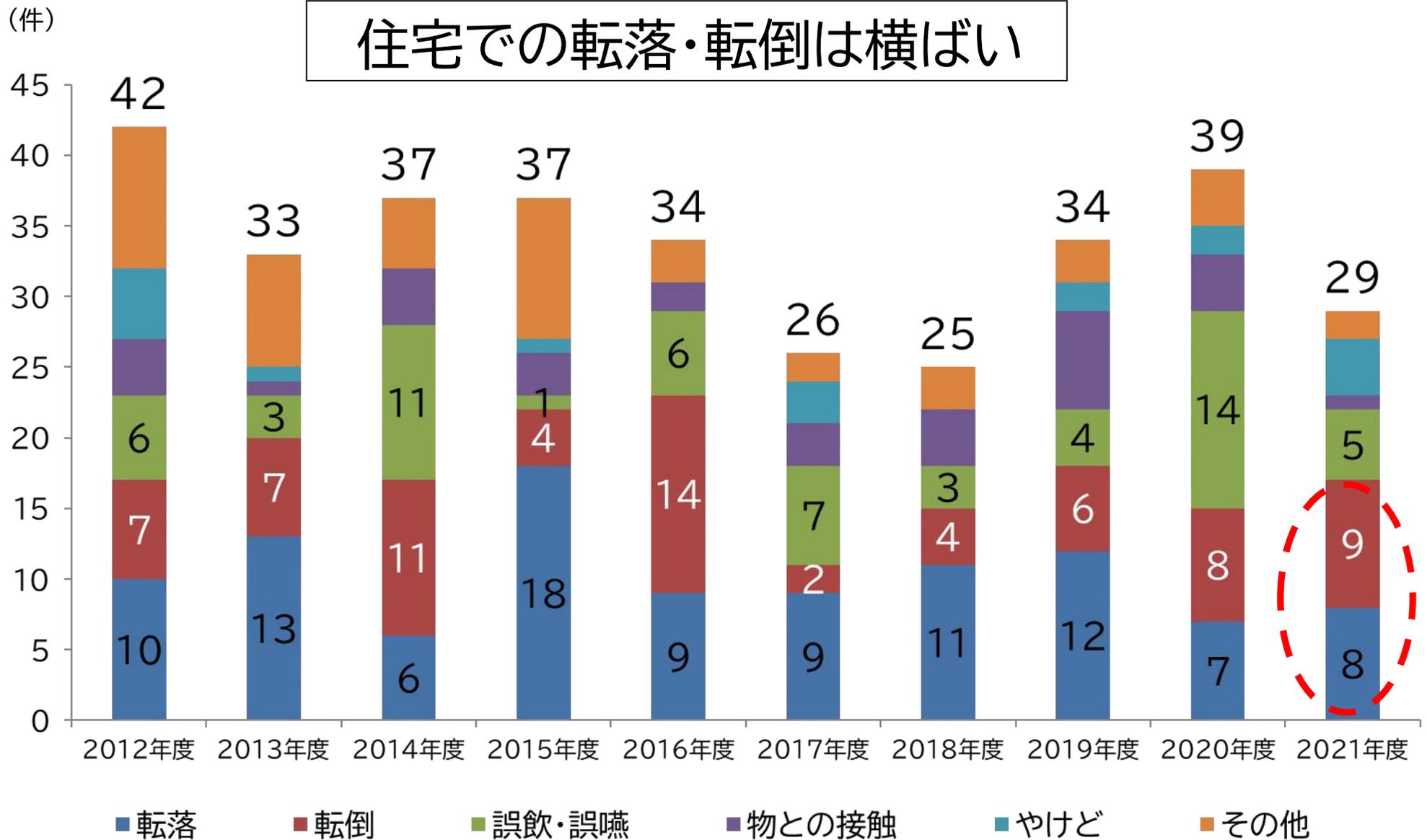
(n=3,921人) (n=3,848人) (n=3,758人) (n=3,657人) (n=3,544人) (n=3,458人) (n=3,297人) (n=3,259人) (n=3,103人) (n=3,025人)

■住宅 ■公衆出入場所 ■道路 ■その他 ●受傷率 ■住宅での受傷率

出典:救急搬送データ

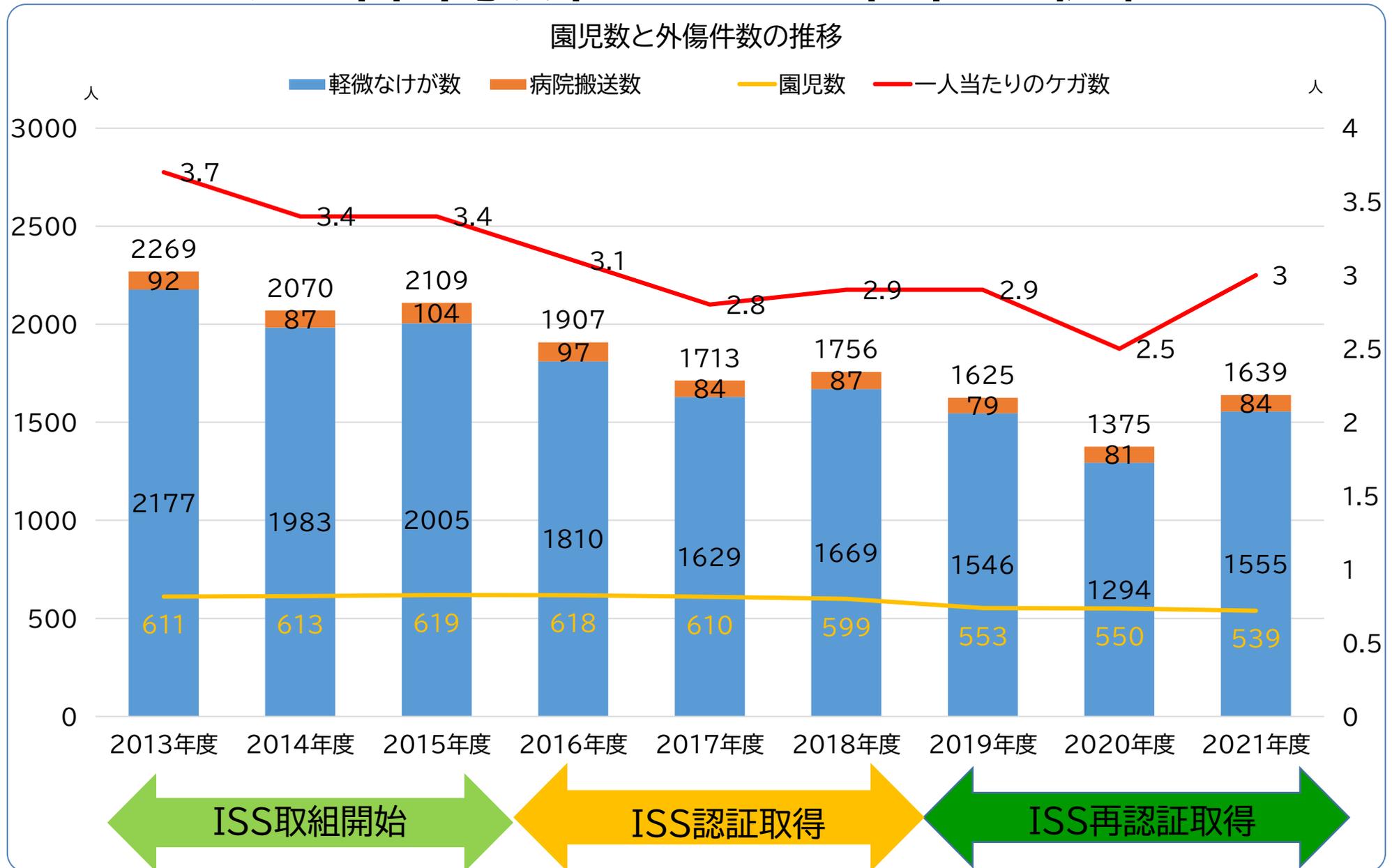
プログラム評価結果(長期)

乳幼児(0~4歳)の住宅における外傷受傷原因について

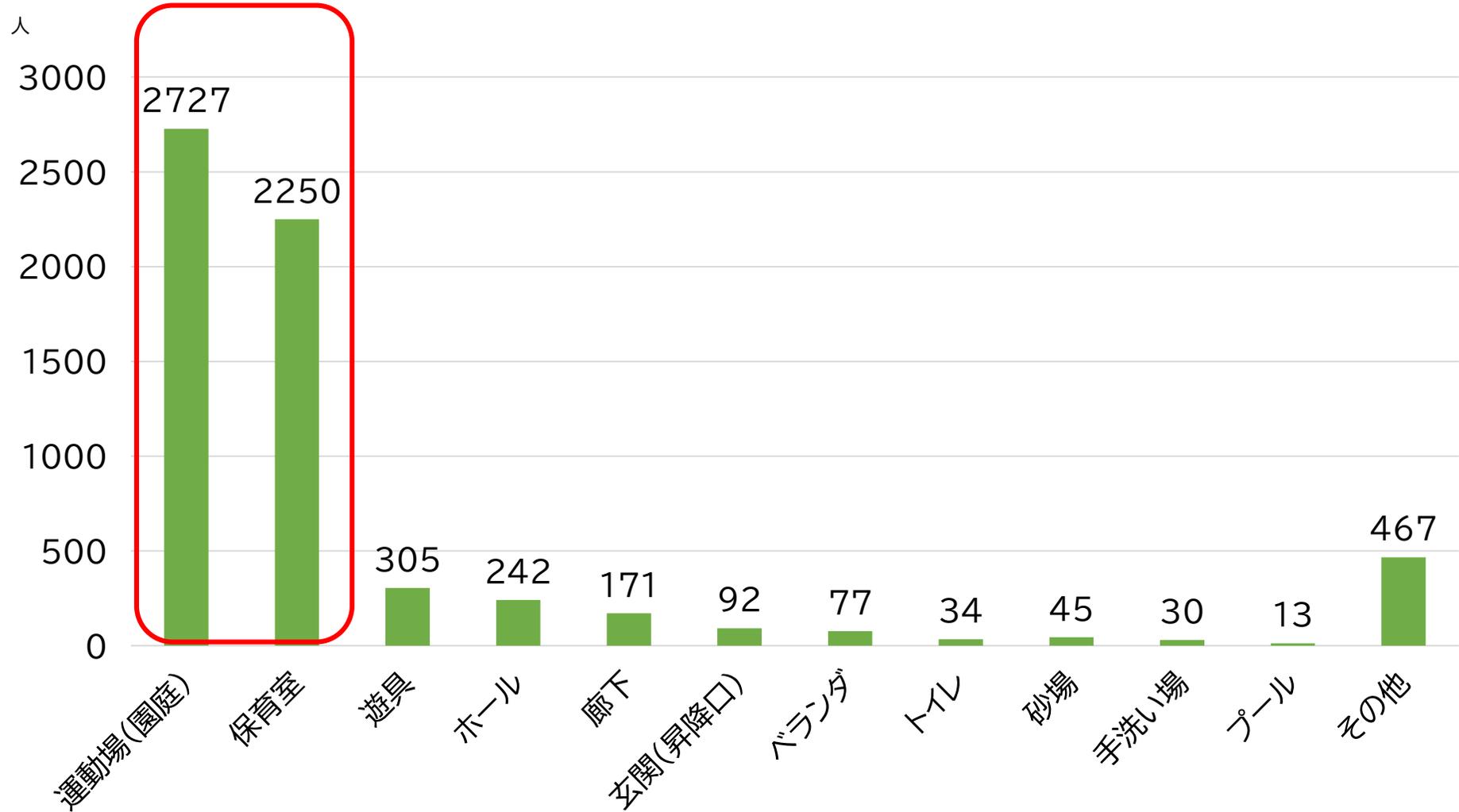


出典:救急搬送データ

公立保育所・こども園の取組



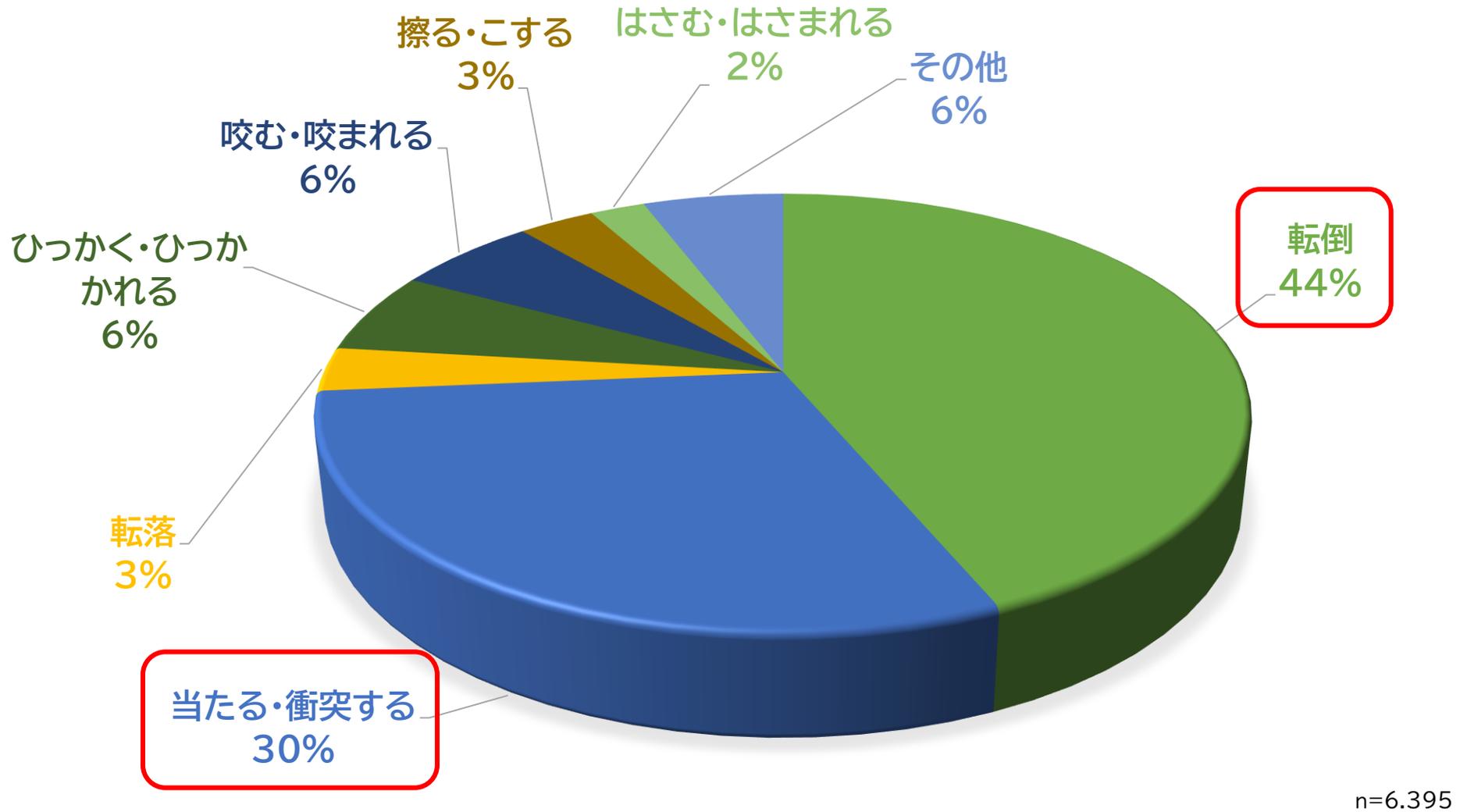
場所別外傷数(2018~2021年度)



出典: 亀岡市立保育所こども園けがデータ

*** 運動場、保育室でのケガが多い**

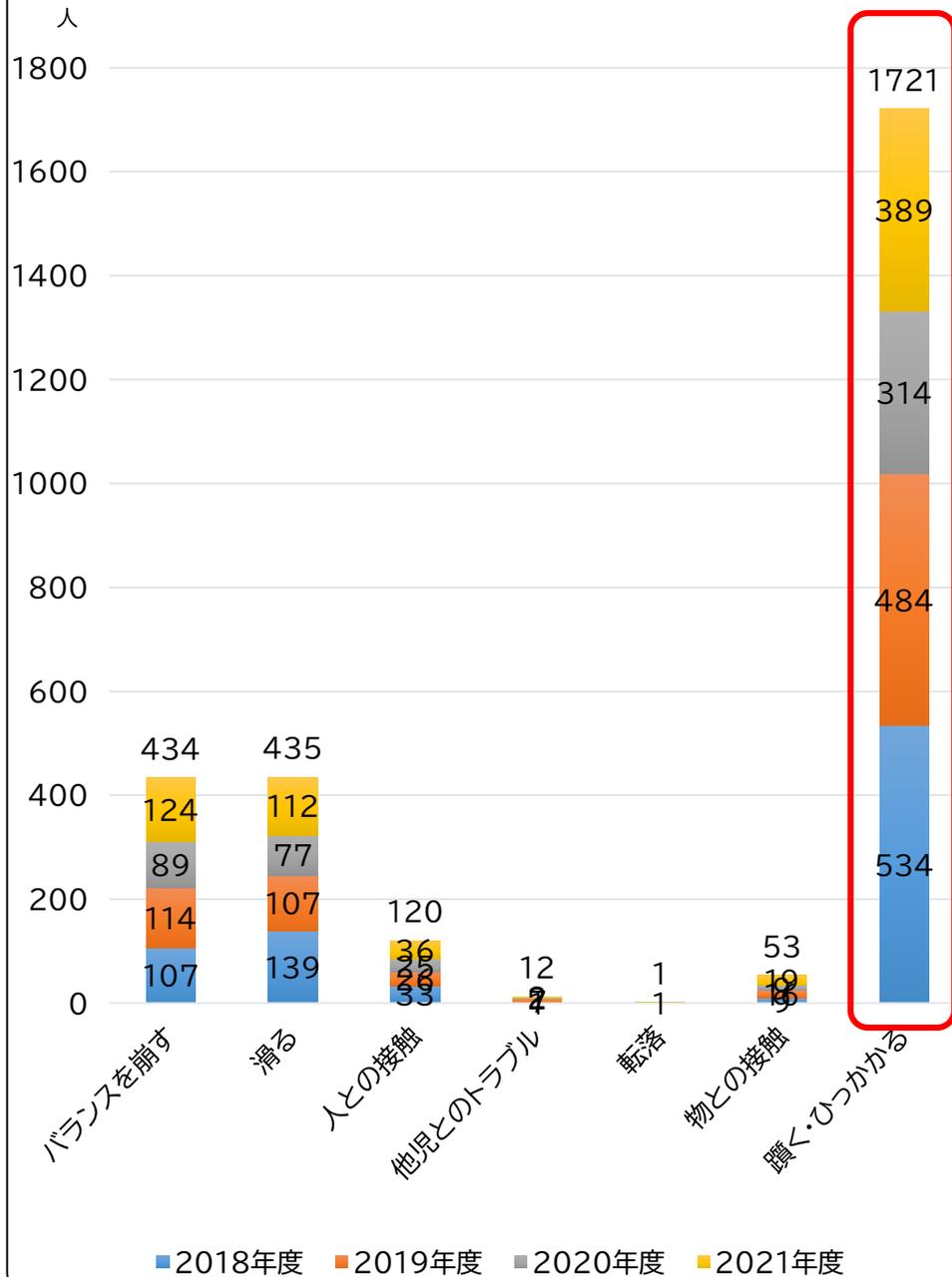
外傷数原因割合(2018~2021年度)



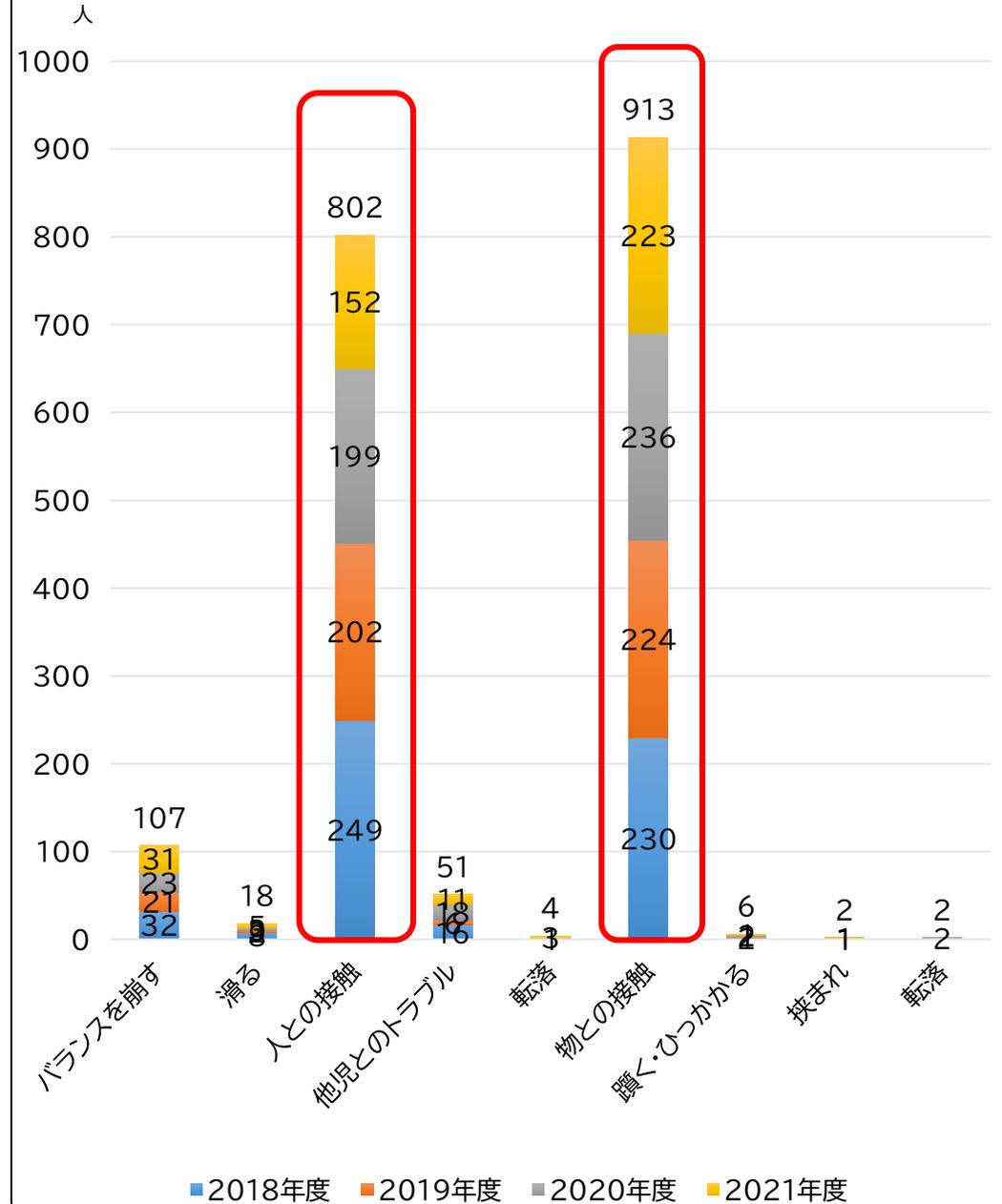
出典: 亀岡市立保育所こども園けがデータ

*ケガの原因は、①転倒②当たる・衝突する

年度別「転倒」での間接機転



年度別「当たる・衝突する」での間接機転



出典：亀岡市立保育所こども園けがデータ

主観的・客観的課題の整理

経験に基づくもの

- ・社会の利便性があがり、経験が減少し、子どもの体力低下、転倒時に手をつかない等の姿がある
- ・乳幼児は成長過程にあり、心と体のコントロール、見通しとともに持ちにくいいため、けがにつながる

データに基づくもの

- ・運動場、保育室での外傷が多い
- ・外傷の原因については、①転倒②当たる・衝突するの割合が74%を占めている
- ・「転倒」の間接機転は躓く・ひっかかる、「当たる・衝突する」の間接機転は人との接触・物との接触が多い



重点課題の設定

優先的に取り組む重点課題

重点領域	重点課題
乳幼児の施設での安全(継続)	<ul style="list-style-type: none">・運動場、保育室での外傷が多い・外傷の原因については、①転倒②当たる・衝突するの割合が74%を占めている・「転倒」の間接機転は躓く・ひっかかる、「当たる・衝突する」の間接機転は人との接触・物との接触が多い・災害共済給付の申請に至るけががある

課題解決のための方向性と対策

課 題	方 向 性	対 策
<ul style="list-style-type: none"> ・運動場、保育室での外傷が多い ・外傷の原因については、①転倒②当たる・衝突するの割合が74%を占めている ・「転倒」の間接機転は躓く・ひっかかる、「当たる・衝突する」の間接機転は人との接触・物との接触が多い ・災害共済給付の申請に至るけががある 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの危険回避能力の向上 ・環境改善等安全対策 ・子どもの体験を重要視した安全教育 	<p>乳幼児安全安心プログラム(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体づくり ②環境改善 ③安全教育

課題設定に対する既存の取組(国・府 市町村 地域)

課題	区分	国・府	市町村	地域
災害共済給付の申請に至るけががある	環境改善	<p>「#8000」等の相談窓口、コールセンターの設置</p> <p>製品の改善 (JIS・SG・ST・キッズデザインマーク 等)</p>		
	規制	<p>園外活動時の安全管理に関する留意事項</p> <p>事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン</p> <p>都市公園における遊具の安全確保に関する指針</p>	<p>危機管理マニュアル 安全管理マニュアル</p>	
	教育・啓発	<p>保育所保育指針</p> <p>ウェブサイト、メール、SNSで保護者等に発信(子どもを事故から守る! Twitter、健やか親子21、こちら安全情報局)</p> <p>厚生労働省、消費者庁など発行のハンドブック</p>	<p>対策委員会 乳幼児安全安心プログラム</p> <p>①体づくり ②環境改善 ③安全教育</p>	<p>保護者へおたより配布(健康だより・安全だより等)</p> <p>専門機関との連携</p>

プログラムの運営状況

	進行状況				計画(予定)		
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
運動あそびプログラム							
乳幼児安全安心プログラム							

2016年から2021年はセーフスクールに移行

乳幼児安全安心プログラム 継続

----->

②乳幼児安全安心プログラム(継続)

課 題	災害共済給付の申請に至るけががある	
目 標	災害共済給付の申請に至るけがの予防	
内容等	【内容】	①体づくり ②環境改善 ③安全教育
	【対象】	園児、職員、保護者、地域
(短・中期) 態度や行動の 変化	【指標】 転倒、当たる・衝突するけがの 割合	【測定】 亀岡市立保育所こども園 けがデータ
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 災害共済給付の申請割合	【測定】 亀岡市立保育所こども園 けがデータ

乳幼児安全安心プログラムの活動状況

①体づくり

健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う

ねらい

- ①明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう
- ②自分の身体を十分に動かし、進んで運動しようとする
- ③健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する

(保育所保育指針第2章ねらい及び内容並びに配慮事項第3満3歳以上の園児の教育及び保育に関する狙い及び内容)

体づくりの要素



など

三角竹馬



木登り



ヨガごっこ



斜面遊び

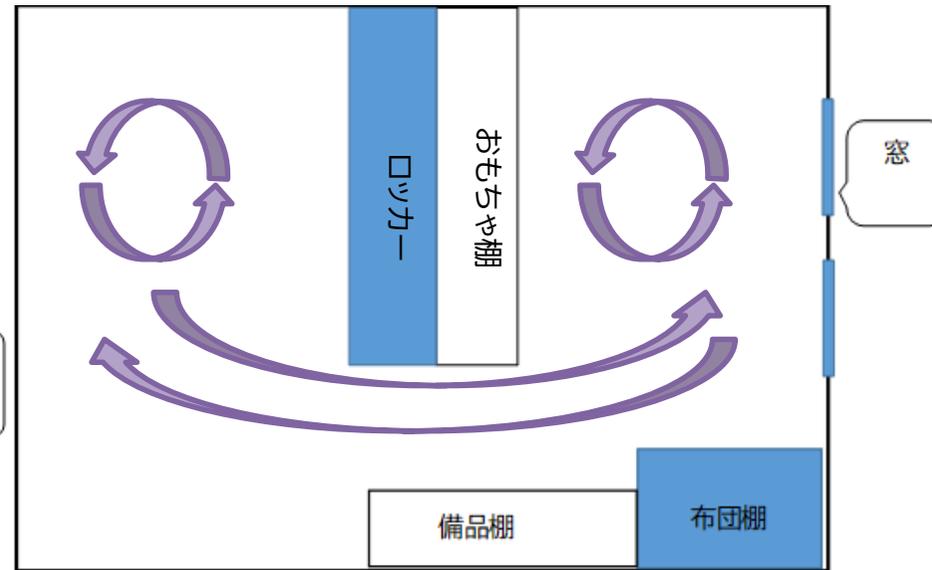
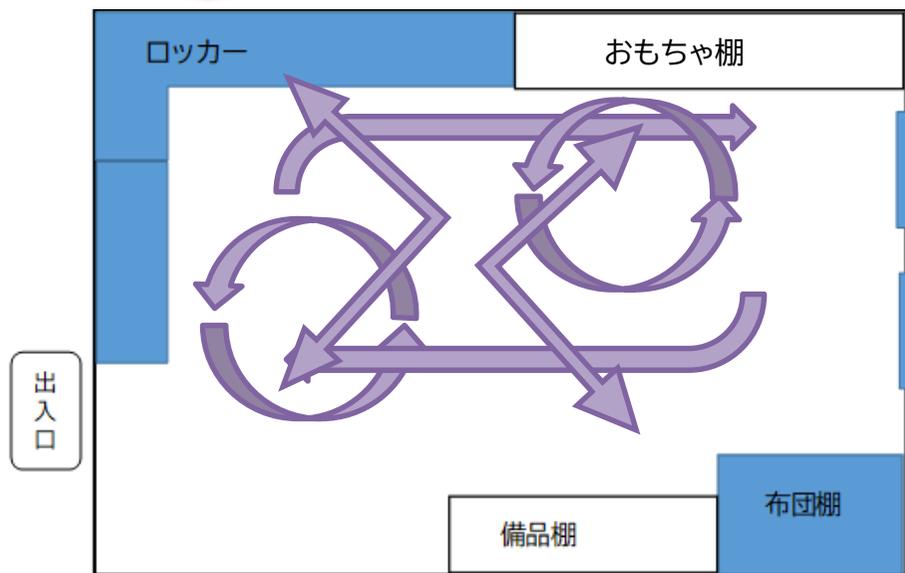


②環境改善

保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め、安全対策のために全職員の共通理解や体制づくりを図るとともに、家庭や地域の関係機関の協力の下に安全指導を行うこと

(保育所保育指針第3章健康及び安全 3環境及び衛生管理並びに安全管理 (2)事故防止及び安全対策 ア)

保育室の環境改善

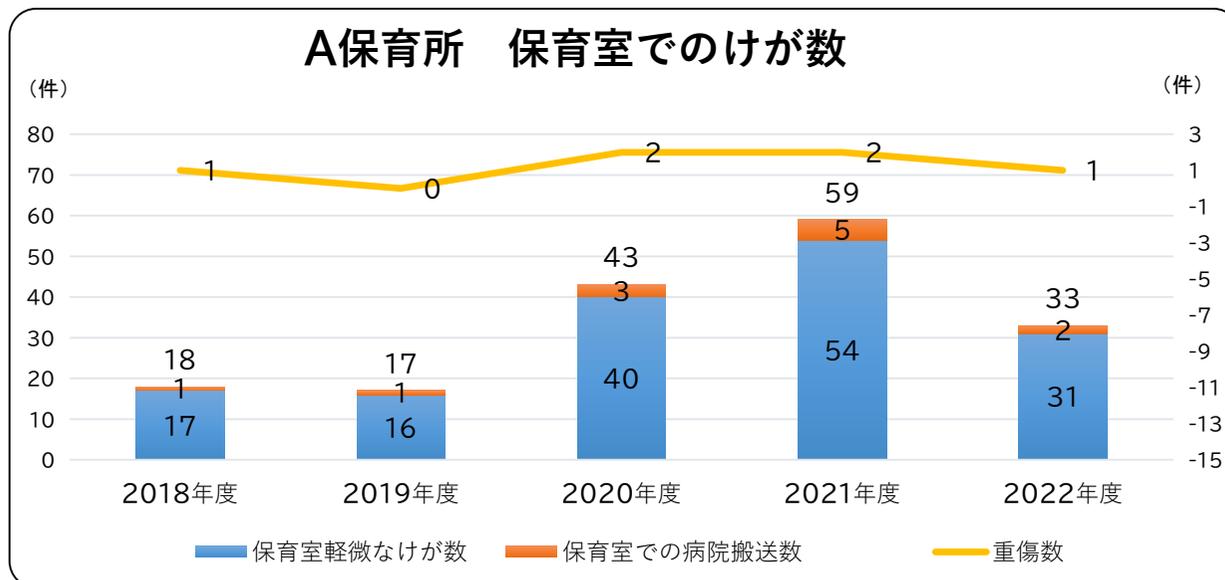


→ = 園児動線

before



after



出典: 亀岡市立保育所こども園けがデータ

その他の
環境改善



取組み	実施回数
安全点検	毎月1回 合計126回
業者による遊具点検	年4回(計画)
危険箇所調べ	随時 合計345回

出典: 亀岡市立保育所こども園データ

③安全教育

事故防止の取組を行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な対策を講じること

(保育所保育指針第3章健康及び安全 3環境及び衛生管理並びに安全管理 (2)事故防止及び安全対策 イ)

どうしたの？

こけた

ブランコ揺れてるところを飛び降りたん？

飛び降りてないけど揺れてたときに降りた

何してたの？

ブランコしてた

ブランコしてて？

降りようとしたときにこけてん

次は気をつけようね



自分で状況に応じて危険を回避するようになるために

体を動かして遊ぶことを通して、危険な場所、物、状況が分かたりその時にどうしたらよいかを体験をとおして学ぶ



(友達へ)みんな、ここ滑るから気をつけて！

なんで滑ったの？

雨が降って、床が濡れててん

友達に伝えてくれてたの？

うん、こけて危なかったから

ありがとう。お知らせしてく
れたから、安心やね

自分の経験を 周囲の人へ伝える



プログラム評価結果(短期・中期)

転倒、当たる・衝突するけがの割合

短・中期	2018年	2019年	2020年	2021年
転倒(件数)	827	757	518	688
園における転倒事故の割合	47%	43%	29%	39%

→ -8%減

当たる・衝突する(件数)	545	459	487	427
園における転倒事故の割合	31%	26%	28%	24%

→ -7%減

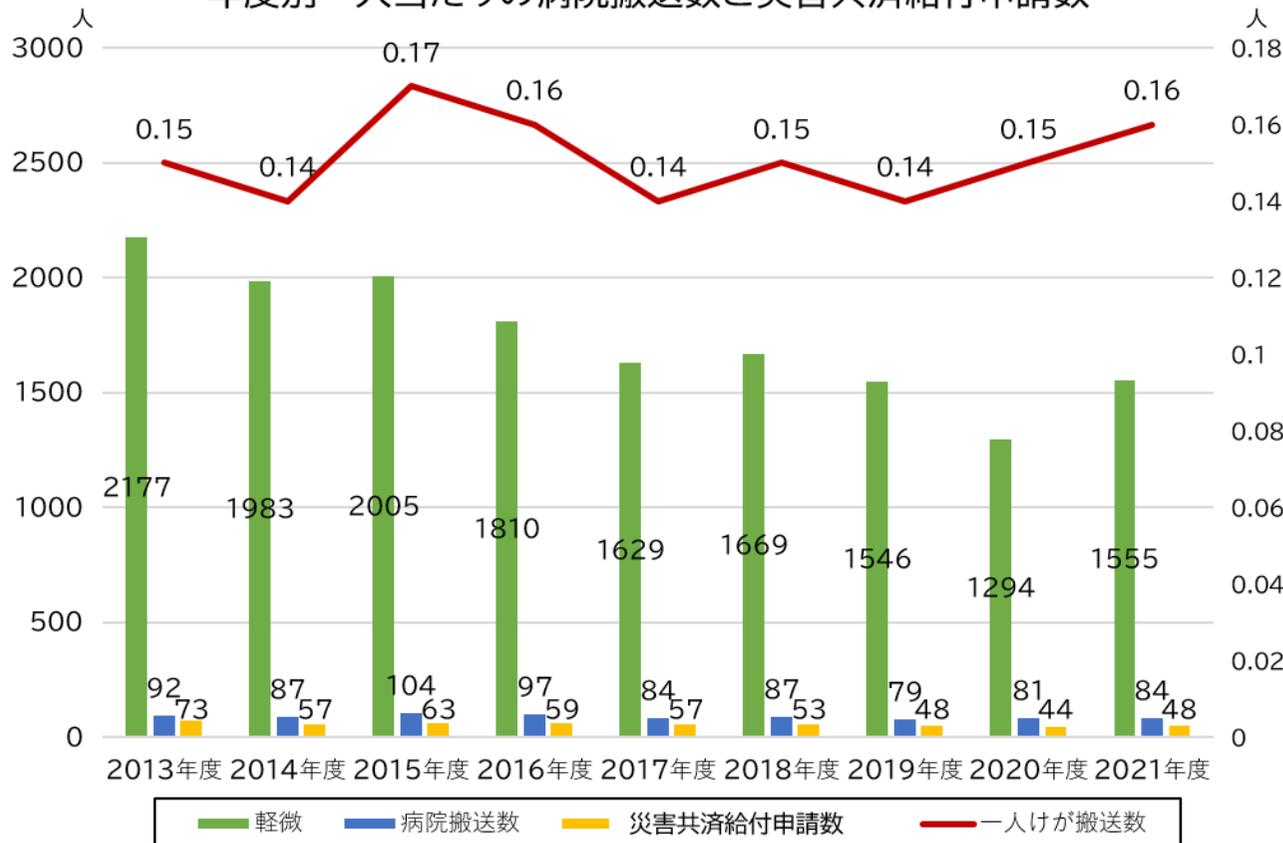
転倒、当たる・衝突するけがが減少

プログラム評価結果(長期)

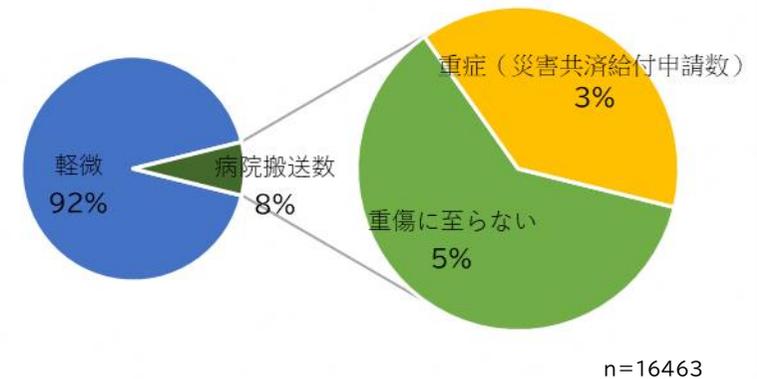
1人あたりの病院搬送件数

長期	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
1人あたりの病院搬送件数	0.15	0.14	0.17	0.16	0.14	0.15	0.14	0.15	0.16

年度別一人当たりの病院搬送数と災害共済給付申請数



病院搬送数と災害共済給付申請数(重傷)割合 (2013~2021年度)



出典: 亀岡市立保育所こども園けがデータ

気付きや変化

- 2016年からISSへ移行した乳幼児安全安心プログラムを、2022年から当委員会で継続して取り組むことになった。
- 生活様式に合わせた啓発を検討し続けること、多様な場所や人から繰り返し伝え続けることが大切。
- 委員会メンバーで事故予防の大切さを確認しあうことが、活動のモチベーション維持につながる。

今後の課題

①乳幼児保護者向け安全教育プログラム(継続)

住宅内の外傷による救急搬送件数と
受傷率が横ばい

②乳幼児安全安心プログラム(継続)

職員の安全意識に幅がある

災害共済給付の申請に
至るけががある

今後の計画

2023

2024

2025

2026

2027

2028

プログラム① 継続 乳幼児保護者向け安全教育プログラムの着実な推進

【住宅内の外傷による救急搬送件数と受傷率を減らす】
保護者の外傷予防活動の認知度を上げる、効果的な啓発やアンケート内容を検証していきます

プログラム② 継続 乳幼児安全安心プログラムの着実な推進

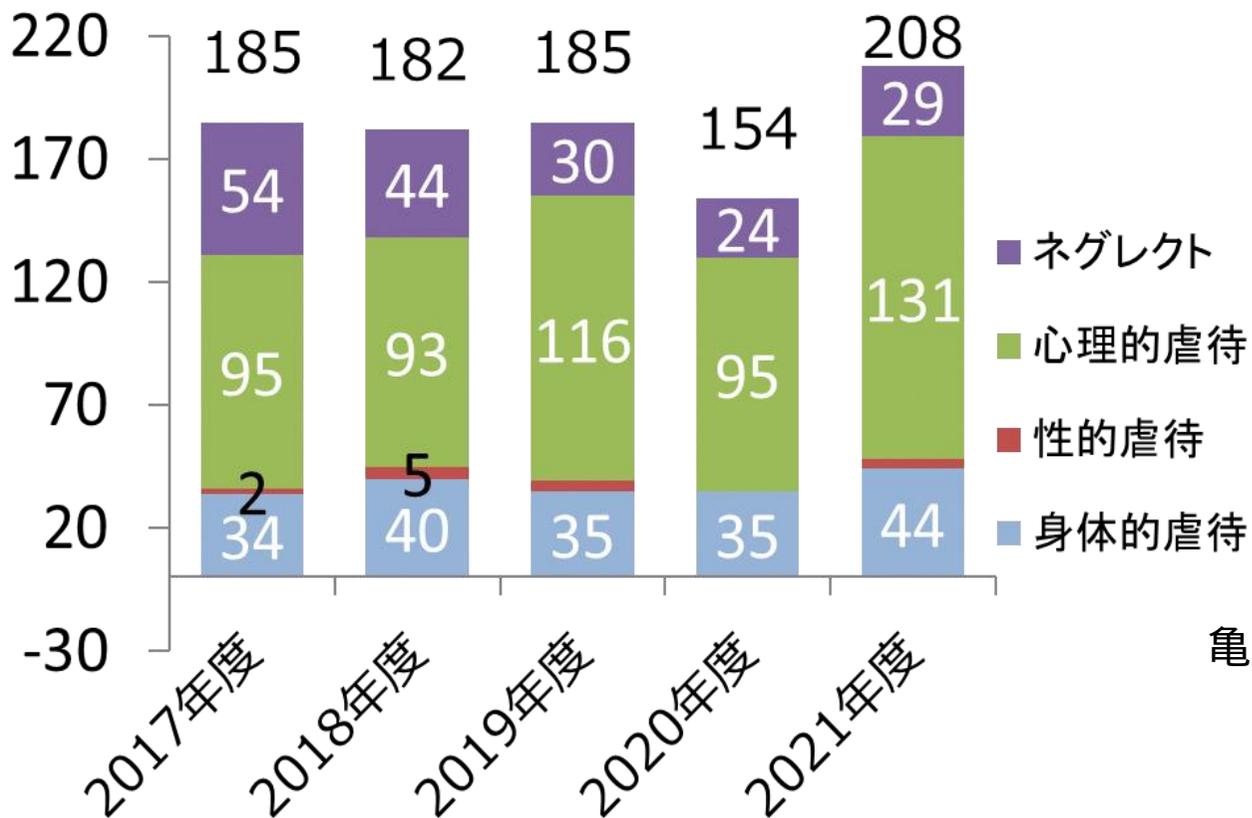
【職員の安全意識の向上】
ケガ状況や取組をとおして、検証をします
子どもの特徴やけがの傾向を振り返りながら、取組を考えます

【災害共済給付の申請に至るけがを予防する】
子どもの気づきを大切に子ども主体の取組を進めます

児童虐待への対応

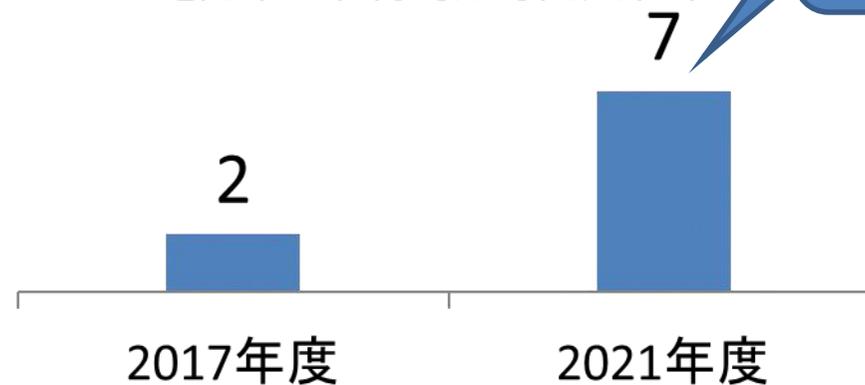
「児童虐待相談件数は**増加傾向**」

(件) 児童虐待相談受理件数の推移



- ・虐待相談窓口の普及
- ・市民の虐待防止への意識の高まり
- ・潜在する不適切な養育、要支援家庭の発見・発覚の機会の増加、等

亀岡市の虐待対応専門員(人)



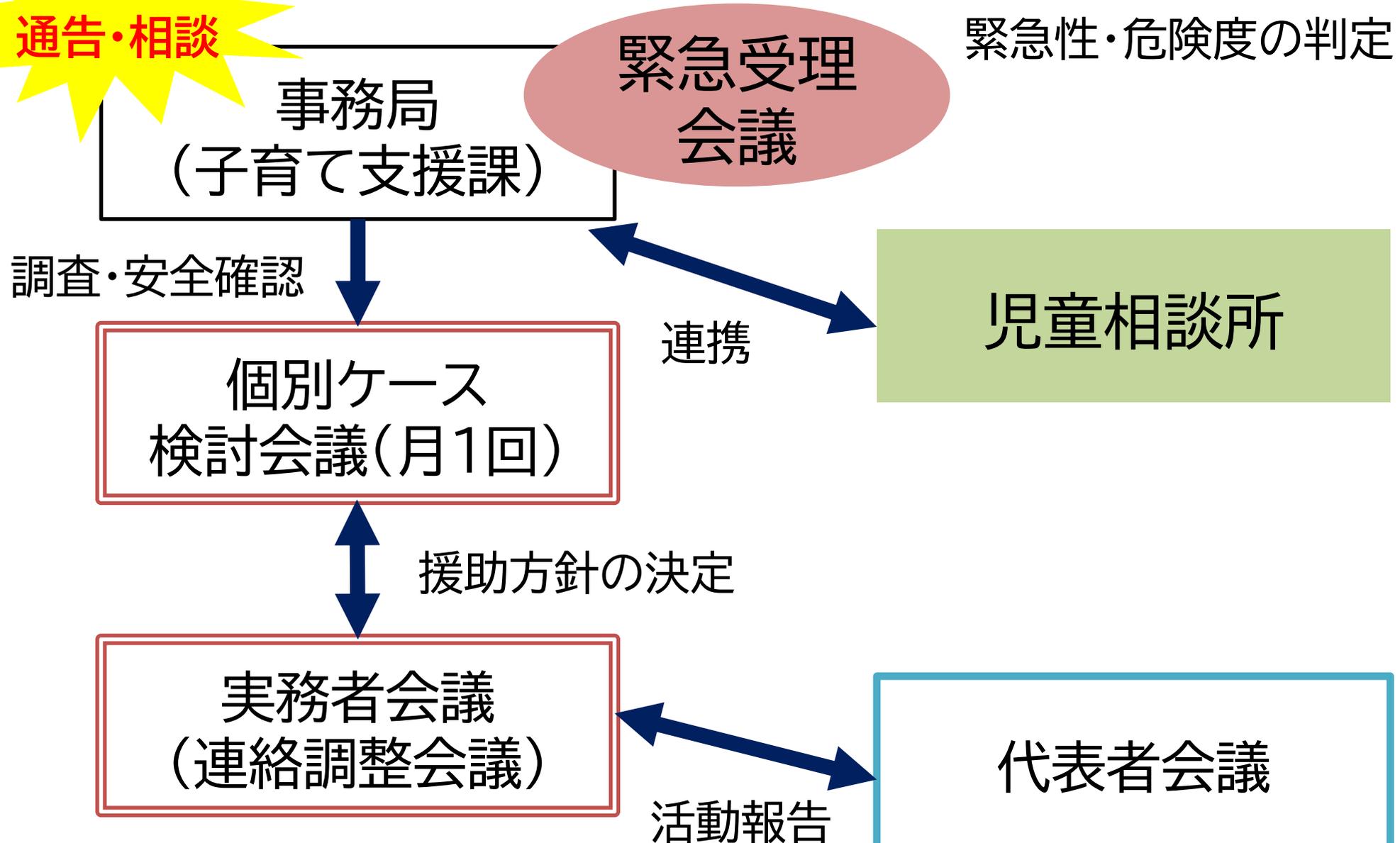
常時6人が対応

出典: 亀岡市要保護児童対策協議会資料(亀岡市こども未来課)

児童虐待への対応

児童虐待対応体制～亀岡市要保護児童対策地域協議会～

通告・相談



乳幼児の安全対策委員からの意見

子育てひろばの利用が、保護者の育児負担を軽減や虐待予防につながっている

一見、困っていないように見えても、実は大変さを抱えている人もいる

子育て支援としての日々の活動が保護者の気分転換をはかることになっている

市内に遊び場が増えていることは良い
子どもが楽しく遊んで機嫌が良ければ、それだけで育児負担の軽減になると思う

子育てをしている中で「皆同じことで悩んでいる」と感じてもらうことを心掛けている

大人目線ではなく、子ども目線で考えたい
話すことが出来たなら、子どもは何と言うかな

保護者に余裕があれば子どもへの対応も変わる
保護者がリラックスできて楽しくなる子育てひろばを開催している

コロナ禍で子育てが孤立化している

虐待しなくてもいい環境づくりに視点をあてるのも大切

「虐待」という言葉に過剰に反応し、周りからの目を過剰に気にする保護者もいる



子育て支援の現状

